

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成27年4月1日  
(第44期) 至 平成28年3月31日

日本システム技術株式会社

大阪市北区中之島二丁目3番18号

(E05236)

## 目次

表紙	頁
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	5
4. 関係会社の状況	7
5. 従業員の状況	8
第2 事業の状況	9
1. 業績等の概要	9
2. 生産、受注及び販売の状況	10
3. 対処すべき課題	11
4. 事業等のリスク	13
5. 経営上の重要な契約等	15
6. 研究開発活動	15
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	15
第3 設備の状況	17
1. 設備投資等の概要	17
2. 主要な設備の状況	18
3. 設備の新設、除却等の計画	19
第4 提出会社の状況	20
1. 株式等の状況	20
(1) 株式の総数等	20
(2) 新株予約権等の状況	20
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	20
(4) ライツプランの内容	20
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	20
(6) 所有者別状況	21
(7) 大株主の状況	21
(8) 議決権の状況	22
(9) ストックオプション制度の内容	22
2. 自己株式の取得等の状況	23
3. 配当政策	23
4. 株価の推移	24
5. 役員の状況	25
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	27
第5 経理の状況	31
1. 連結財務諸表等	32
(1) 連結財務諸表	32
(2) その他	62
2. 財務諸表等	63
(1) 財務諸表	63
(2) 主な資産及び負債の内容	73
(3) その他	73
第6 提出会社の株式事務の概要	74
第7 提出会社の参考情報	75
1. 提出会社の親会社等の情報	75
2. その他の参考情報	75
第二部 提出会社の保証会社等の情報	76

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年6月27日
【事業年度】	第44期（自平成27年4月1日至平成28年3月31日）
【会社名】	日本システム技術株式会社
【英訳名】	Japan System Techniques Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 平林 武昭
【本店の所在の場所】	大阪市北区中之島二丁目3番18号
【電話番号】	06（4560）1000（代）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 大門 紀章
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区中之島二丁目3番18号
【電話番号】	06（4560）1000（代）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 大門 紀章
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第40期	第41期	第42期	第43期	第44期
決算年月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
売上高 (千円)	9,027,811	10,139,381	10,828,399	11,505,104	11,821,083
経常利益 (千円)	327,463	355,943	474,078	435,961	441,171
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	135,839	168,886	278,922	228,579	291,873
包括利益 (千円)	136,854	193,712	311,738	314,626	191,981
純資産額 (千円)	4,386,158	4,489,539	5,066,409	5,433,007	5,448,452
総資産額 (千円)	7,363,216	8,050,153	8,817,204	8,717,753	9,019,694
1株当たり純資産額 (円)	917.91	929.70	954.53	1,020.03	1,028.31
1株当たり当期純利益金額 (円)	28.64	35.52	57.03	43.56	55.62
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	28.49	35.39	56.20	—	—
自己資本比率 (%)	59.2	55.0	56.6	61.4	59.8
自己資本利益率 (%)	3.1	3.8	5.9	4.4	5.4
株価収益率 (倍)	20.9	18.2	11.5	19.1	11.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	589,503	181,525	393,417	△204,341	△12,370
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△202,966	△449,477	△13,489	△281,985	119,604
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△790,982	△145,693	149,776	△102,420	△216,725
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	2,015,704	1,609,962	2,144,070	1,559,743	1,447,493
従業員数 (人)	650	780	784	782	821

(注) 1. 売上高には消費税等は含んでおりません。

2. 従業員数は、就業人員数を表示しております。

3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当連結会計年度より、「当期純利益」を「親会社株主に帰属する当期純利益」としております。

4. 第43期及び第44期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第40期	第41期	第42期	第43期	第44期
決算年月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
売上高 (千円)	7,475,982	7,956,269	8,640,137	9,682,373	10,160,749
経常利益 (千円)	303,446	249,523	450,701	428,119	437,974
当期純利益 (千円)	143,399	115,387	292,651	223,245	288,876
資本金 (千円)	919,665	924,223	1,071,446	1,076,669	1,076,669
発行済株式総数 (株)	5,111,730	5,128,330	5,594,230	5,612,230	5,612,230
純資産額 (千円)	4,708,877	4,730,211	5,215,292	5,503,120	5,650,499
総資産額 (千円)	7,178,504	7,439,565	8,406,023	8,314,784	8,568,500
1株当たり純資産額 (円)	991.63	992.66	997.09	1,048.61	1,076.69
1株当たり配当額 (円)	25.00	25.00	25.00	25.00	25.00
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	30.24	24.27	59.84	42.54	55.04
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	30.07	24.18	58.96	-	-
自己資本比率 (%)	65.6	63.6	62.0	66.2	65.9
自己資本利益率 (%)	3.1	2.4	5.9	4.2	5.2
株価収益率 (倍)	19.8	26.6	11.0	19.5	12.1
配当性向 (%)	82.7	103.0	41.8	58.8	45.4
従業員数 (人)	591	604	624	621	633

(注) 1. 売上高には消費税等は含んでおりません。

2. 従業員数は、就業人員数を表示しております。

3. 第43期及び第44期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【沿革】

年月	事項
昭和48年3月	ソフトウェアの開発業務を目的として大阪市東区（現中央区）内本町橋詰町55番地に日本システム技術株式会社を設立
昭和52年7月	東京都港区に東京支社を開設
昭和55年2月	本社を大阪市北区中之島三丁目2番18号に移転
昭和57年9月	シンガポールにシステム開発会社 JAST TECHNIQUES PTE. LTD. を設立
昭和62年4月	大阪・東京2本部体制実施
平成3年2月	通商産業省（現 経済産業省）の「システムインテグレータ」企業に登録
平成5年3月	本社を大阪市北区堂島浜二丁目2番28号に移転 東京支社を東京都文京区に移転
平成6年10月	学校事務支援統合システムパッケージソフト「GAKUEN」シリーズ発売開始
平成8年6月	建築法令コンテンツの開発・販売会社 日本建築法令株式会社を子会社化し、経営権獲得
平成9年3月	通商産業省（現 経済産業省）の「システムインテグレータ」企業に認定
平成10年3月	大阪府吹田市に江坂事業所開設
平成10年8月	大規模大学向け学校事務支援統合システム「GAKUEN REVOLUTION（学務）」の発売開始
平成11年4月	アウトソーシングサービス開始
平成12年2月	学校関係者間の情報ネットワークをWeb環境上で実現するパッケージソフト「UNIVERSAL PASSPORT」発売開始
平成12年3月	JAST TECHNIQUES PTE. LTD. の持つタイのシステム開発会社 JASTEC（THAILAND）CO., LTD. の株式を全株取得
平成12年4月	大阪・東京2本部体制を廃止し事業部制を実施
平成13年5月	社団法人情報サービス産業協会から「プライバシーマーク」付与企業に認定
平成13年7月	大阪市淀川区に新大阪事業所開設
平成13年11月	ジャスダック市場に上場
平成14年3月	大規模大学向け学校事務支援統合システム「GAKUEN REVOLUTION（法人）」の発売開始
平成15年2月	東京証券取引所市場第二部に上場
平成15年4月	東京・大阪2本社体制実施 東京本社を東京都港区に移転
平成15年12月	通信事業部がISO14001を取得
平成16年3月	日本建築法令株式会社を解散
平成16年4月	東京本社第一ソリューション事業部第一部がISMSの認定を取得
平成17年8月	大阪本社を大阪市北区中之島二丁目2番7号に移転し、新大阪事業所を統合
平成18年8月	文教マーケット向けシステム販売会社 アルファコンピュータ株式会社の全株式を取得し、子会社化
平成18年9月	「GAKUEN UNIVERSAL PASSPORT EX」の発売開始
平成19年3月	「GAKUEN REVOLUTION EXシリーズ」学務系及び「GAKUEN EXシリーズ」学務系の発売開始
平成19年7月	東京都品川区に北品川事業所開設
平成20年6月	「GAKUEN REVOLUTION EXシリーズ」法人系（経理・管財）の発売開始
平成20年10月	東京システム本部がISO27001（ISMS）を取得
平成22年2月	「GAKUEN EXシリーズ」法人系（経理・管財）の発売開始
平成22年8月	診療報酬明細書の自動点検システム「JMICS」サービス開始
平成22年12月	ISO27001（ISMS）を東京本社全体に認証拡大
平成24年1月	医療情報サービス事業部がISO9001及びISO27001の認証を取得
平成24年7月	株式会社新日本ニーズ、SafeNeeds株式会社及び桂林安信軟件有限公司の3社を株式取得等により子会社化 大阪本社全体でISO9001、ISO14001及びISO27001の認証を取得

年月	事項
平成25年2月	大阪本社を大阪市北区中之島二丁目3番18号に移転し、江坂事業所を統合
平成26年3月	全社でISO9001、ISO14001及びISO27001の認証を取得
平成26年4月	全学統合型eラーニングシステム「GAKUEN EduTrack」の発売開始
平成26年11月	東京本社を同ビル内階上へ移転、増床
平成27年9月	上海嘉峰信息科技有限公司への出資が完了し、子会社化

### 3【事業の内容】

当連結会計年度において出資金の払込を終え、外資投資企業としての一連の手続きが完了したため、上海嘉峰信息科技有限公司を新たに連結の範囲に含めております。

その結果、当社グループは当社及び連結子会社7社の構成となり、顧客の個別ニーズに合わせたオーダーメイド方式によるソフトウェアの受託開発等を行うソフトウェア事業、主として教育機関向けの業務パッケージの開発・販売等を行うパッケージ事業、ハードウェア・ソフトウェアの販売等を行うシステム販売事業、並びにレセプトの自動点検・分析・医療費通知のトータルサービスを行う医療ビッグデータ事業の4事業を営んでおります。

当社グループの事業の内容は次のとおりであります。

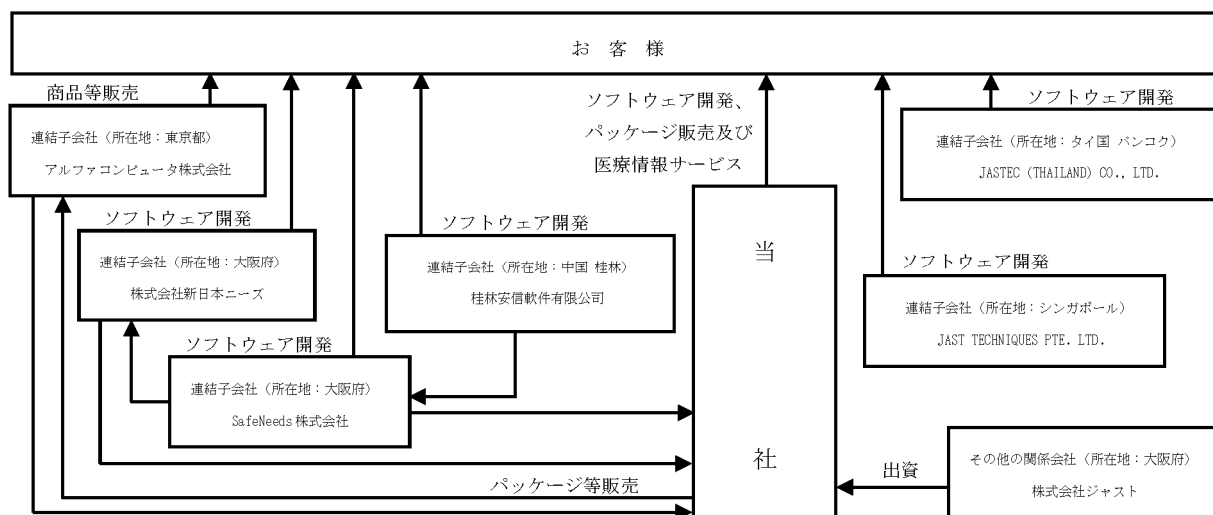
なお、次の事業区分は「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」に掲げるセグメント情報の事業区分と同一であります。

事業	分野	内容	会社名
ソフトウェア事業	ビジネスアプリケーション分野 (事務処理系システム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産管理、物流管理、受発注管理等製造業向けシステム</li> <li>店舗情報、仕入、出荷管理、バーチャルショッピングモール、ショッピングマイレージサービス等流通業、サービス業向けシステム</li> <li>金融機関向け勘定系、情報系、国際業務、経営管理、カードローン等のシステム</li> <li>株式売買、投資信託、ディーリング、インターネット証券取引等証券業向けシステム</li> <li>契約管理、損保新積立等保険業向けシステム</li> <li>電話料金、税収管理、住民情報、郵便貯金、高速道路ETC等公共系システム</li> <li>入試、学籍、教務、就職支援等学校及び学生向けシステム</li> <li>Webサイトの制作、スマートフォンアプリの開発及び関連ネットワークビジネスシステム</li> <li>会計、人事、統合パッケージ(ERP)導入サポート、顧客情報管理(CRM)システム、データウェアハウス構築、生体認証セキュリティシステム等その他事務処理システム</li> <li>運送業者向け配車・販売業務支援システム</li> <li>金融機関向け情報統合パッケージ「BankNeo」の開発、販売、保守、導入支援及び関連システムの受託開発等</li> </ul>	当社 JAST TECHNIQUES PTE. LTD. JASTEC (THAILAND) CO., LTD. 株式会社新日本ニーズ SafeNeeds株式会社 桂林安信軟件有限公司
	エンジニアリングアプリケーション分野 (通信・制御・技術系システム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話・デジタルAV機器・車載システム等組み込みソフトウェア、地上波デジタル放送、移動体通信、カーナビゲーション、シミュレータ等情報通信関連システム</li> </ul>	
	イベントアプリケーション分野 (スポーツ・文化イベント関連システム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>バレーコンクール等、スポーツ・文化イベント運営システム</li> </ul>	
パッケージ事業	戦略的大学経営システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模大学版ERP「GAKUEN REVOLUTION EX」シリーズの開発、販売、保守、導入支援及び関連システムの受託開発等</li> <li>学校事務支援統合システム「GAKUEN EX」シリーズの開発、販売、保守、導入支援及び関連システムの受託開発等</li> <li>大学向け統合型Webサービスシステム「GAKUEN UNIVERSAL PASSPORT EX」の開発、販売、保守、導入支援及び関連システムの受託開発等</li> <li>学校業務のシステム化に関するコンサルテーション、EUC (End User Computing) 支援、BPR (Business Process Reengineering) 支援、運用サービス</li> <li>オンライン教育サポートシステム「GAKUEN EduTrack」の開発、販売、保守、導入支援及び関連システムの受託開発等</li> </ul>	当社 アルファコンピュータ株式会社 上海嘉峰信息科技有限公司



事業	分野	内容	会社名
システム販売事業	情報システム関連機器等の販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ、ネットワーク機器、ソフトウェア・パッケージ等の販売及び保守等</li> <li>・大学及び公共機関向けシステムソリューションの提供</li> <li>・情報通信ネットワークの構築</li> <li>・セキュリティシステムの構築</li> </ul>	アルファコンピュータ株式会社
医療ビッグデータ事業	医療情報データの点検、分析及び関連サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レセプト自動点検サービス「JMICS」（JAST Medical Insurance Checking System）</li> <li>・医療費通知等医療情報サービスシステム</li> <li>・点検事業会社向けクラウドサービス</li> <li>・データヘルス計画書作成支援サービス</li> </ul>	当社 株式会社新日本ニーズ

当社グループの事業に関する各社の位置付け及び主たる事業系統を図によって示すと以下のとおりであります。



#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合 (%)	関係内容
(連結子会社) アルファコンピュータ 株式会社	東京都品川 区	百万円 80	システム販売事業 (コンピュータシス テムの販売)	100.0	当社パッケージ 等の販売先。 役員の兼任あり。
(連結子会社) 株式会社新日本ニーズ	大阪市北区	百万円 10	ソフトウェア事業 (ソフトウェアの開 発・販売)	100.0	役員の兼任あり。
(連結子会社) SafeNeeds株式会社	大阪市北区	百万円 10	ソフトウェア事業 (ソフトウェアの開 発・販売)	90.0	役員の兼任あり。
(連結子会社) JAST TECHNIQUES PTE. LTD.	シンガポ ール共和国	千シンガポ ールドル 1,614	ソフトウェア事業 (ソフトウェアの開 発・販売)	100.0	役員の兼任あり。
(連結子会社) JASTEC (THAILAND) CO., LTD. (注) 1	タイ王国	千タイバーツ 3,000	ソフトウェア事業 (ソフトウェアの開 発・販売)	49.0	役員の兼任あり。
(連結子会社) 桂林安信軟件有限 公司	中華人民 共和国	万人民元 60	ソフトウェア事業 (ソフトウェアの開 発・販売)	80.0	役員の兼任あり。
(連結子会社) 上海嘉峰信息科技 有限公司	中華人民 共和国	万人民元 122	パッケージ事業 (パッケージ販売・ 開発)	59.1	役員の兼任あり。
(その他の関係会社) 株式会社ジャスト	堺市西区	百万円 50	不動産管理	(27.6)	役員の兼任あり。

- (注) 1. 持分は100分の50以下ではありますが、役員の出向及び役員の兼任により実質的に支配しているため、子会社としたものであります。
2. 有価証券届出書及び有価証券報告書の提出会社はありません。
3. アルファコンピュータ株式会社については、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	1,388百万円
	(2) 経常利益	36百万円
	(3) 当期純利益	21百万円
	(4) 純資産額	568百万円
	(5) 総資産額	1,144百万円

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成28年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
ソフトウェア事業	562
パッケージ事業	105
システム販売事業	30
医療ビッグデータ事業	59
全社（共通）	65
合計	821

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数を表示しております。なお、臨時雇用者数（季節工、パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含み、常用パートは除く。）は、その総数が従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。
2. 全社（共通）として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門等に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成28年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（才）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
633	36.3	11.4	5,437,579

セグメントの名称	従業員数（人）
ソフトウェア事業	443
パッケージ事業	98
医療ビッグデータ事業	35
全社（共通）	57
合計	633

- (注) 1. 平均年間給与は、平成28年3月期の実績値であり、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
2. 従業員数は、就業人員数を表示しております。なお、臨時雇用者数（季節工、パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含み、常用パートは除く。）は、その総数が従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。
3. 全社（共通）として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門等に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当社及び連結子会社からなる企業集団（以下「当社グループ」といいます。）の業績は、売上高118億21百万円（前連結会計年度比2.7%増）、営業利益4億1百万円（同10.4%増）、経常利益4億41百万円（同1.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益2億91百万円（同27.7%増）と増収増益となりました。なお、セグメント別の状況は次のとおりとなっております。

まず、ソフトウェア事業（受注ソフトウェアの個別受託開発）につきましては、製造業、官公庁、教育機関及び医療機関向け案件が前年を下回って推移したものの通信業、サービス・流通業及び金融・保険・証券業向け案件がそれぞれ増収となり、売上高は堅調に推移しましたが、一部の不採算プロジェクトの発生に伴うコスト増により、売上高は80億80百万円（前連結会計年度比3.3%増）、営業利益は2億3百万円（同0.4%減）と増収減益となりました。

次に、パッケージ事業（学校業務改革パッケージの販売及び関連サービス）につきましては、導入支援、大学向けP P（プログラム・プロダクト）販売及び運用サービスが前年を上回った一方で、E U C（関連システムの個別受託開発）及び仕入販売が前年を下回り、売上高21億17百万円（同0.7%減）、これに加え製品開発の研究開発費が増加し、営業利益2億18百万円（同19.5%減）と減収減益となりました。

次に、システム販売事業（I T機器の販売及び情報通信インフラの構築）につきましては、大学向け機器販売が前年を下回り、売上高は10億39百万円（同8.1%減）と減収となりましたが、収益性の高い公共系S I（システム・インテグレーション）案件の拡大により、営業利益は5百万円（前連結会計年度は営業損失28百万円）と減収増益となりました。

最後に、医療ビッグデータ事業（医療情報データの点検、分析及び関連サービス）につきましては、レセプト自動点検サービスに加え、分析・医療費通知サービス及び点検業者向けクラウドサービス、データヘルス計画支援サービス等のサービス拡充により、売上高5億84百万円（同39.5%増）、営業損失26百万円（前連結会計年度は営業損失84百万円）となりました。

（注）本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高及び資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、地域ごとの業績は記載を省略しております。

#### (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における当社グループの現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）の状況は、期首の資金残高15億59百万円より1億12百万円減少し、14億47百万円となりました。

なお、各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、使用した資金は12百万円（前連結会計年度は2億4百万円の支出）となりました。この差額は主として仕入債務及び前受金が増加した一方で売上債権の回収にかかる収入が減少したこと等によるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は1億19百万円（前連結会計年度は2億81百万円の支出）となりました。この差額は主として投資有価証券及び有形固定資産の取得による支出が減少したこと等によるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は2億16百万円（前連結会計年度は1億2百万円の支出）となりました。この差額は主として連結の範囲の変更を伴わない関係会社出資金の払込及び短期借入金の返済によるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	前期比 (%)
ソフトウェア事業 (千円)	6,909,001	105.1
パッケージ事業 (千円)	1,246,241	98.1
システム販売事業 (千円)	748,567	79.5
医療ビッグデータ事業 (千円)	350,497	96.9
合計 (千円)	9,254,306	101.2

- (注) 1. 金額は売上原価によっており、セグメント間の取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高	前期比 (%)	受注残高	前期比 (%)
ソフトウェア事業 (千円)	8,358,231	103.9	1,545,641	121.9
パッケージ事業 (千円)	2,187,182	93.6	674,624	111.6
システム販売事業 (千円)	1,205,220	101.6	376,041	179.2
医療ビッグデータ事業 (千円)	1,058,868	248.6	684,040	326.3
合計	12,809,502	106.8	3,280,348	143.1

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	前期比 (%)
ソフトウェア事業 (千円)	8,080,536	103.3
パッケージ事業 (千円)	2,117,057	99.3
システム販売事業 (千円)	1,039,010	91.9
医療ビッグデータ事業 (千円)	584,479	139.5
合計 (千円)	11,821,083	102.7

- (注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。  
2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		相手先	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)		金額 (千円)	割合 (%)
エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)	1,021,979	8.9	エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)	1,369,203	11.6
(株)ダスキン	649,224	5.6	(株)ダスキン	568,808	4.8
T I S(株)	525,172	4.6	T I S(株)	527,626	4.5

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
4. 平成26年7月1日よりエヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)は、エヌ・ティ・ティ・コムウェア西日本(株)を含む地域グループ5社を吸収合併しております。これに伴い、前連結会計年度におけるエヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)向けの販売実績は、エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)及びエヌ・ティ・ティ・コムウェア西日本(株)向けの販売実績を集計して表示しております。

### 3 【対処すべき課題】

#### (1) 当社グループの現状の認識について

当連結会計年度における我が国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策の効果もあって、引き続き企業の収益改善による雇用拡大や設備投資の増加等が見込まれており、輸出等に一部弱含みの動きは見られるものの概ね景気は回復基調を維持いたしました。他方、世界経済においては中国をはじめとした主要新興国の経済成長の鈍化や、円高の進行等の不安定要素を抱え、政治面・経済面ともに依然として景気の停滞・下押しのリスクが残っております。

国内IT産業につきましては、直近の統計（経済産業省、特定サービス産業動態統計2月確報）において平成27年の売上高前年比が2.6%増（平成26年の売上高前年比は3.0%増）となるなど回復傾向を維持するものの、単月で見ると平成27年9月度の売上高前年同月比が2.2%減となる等、回復力はまだまだ脆弱であると認識しております。

#### (2) 当面の対処すべき課題の内容

前述の認識を踏まえ、当社グループでは、受託開発ビジネスにおいては、ソリューション営業の強化によるエンドユーザーとの直接契約の拡大に注力しつつ、製造工程のマネジメント力の強化及びオフショア開発の推進等を進めることで製造原価の低減を図り、併せて国内最大のマーケットである東京地区における体制強化を推進し、同エリアでの受注量増加を実現することにより、同ビジネス全体の収益性向上を目指します。また、自ら顧客やニーズを創造できる自社ブランドビジネスを拡大するため、GAKUEN、JMICS、BankNeoといった既存ブランドについては一層の製品・サービス拡大を図るとともに、新たなブランドを継続的に発信するための研究開発を続ける所存です。また、こうした活動に加え、グローバル化並びにM&Aを含めたアライアンスの拡大等を通じて、全売上高における自社ブランドビジネスの比率を50%程度にまで成長させたく考えております。併せて、引き続きプロジェクト管理技術の向上並びにソリューションメニューの充実による高付加価値化、業界トップレベルの人材輩出に直結する教育・人事制度の導入等にも取り組み、成長基盤のさらなる強化拡大に繋げる所存です。

以上から、当社グループは、開発業務、営業戦術、内部管理等の全てにおいて原点・基本・初心に立ち戻り、部門・個人の目標必達のために「考えて実際に行動する」ことを習慣付けるため、平成28年度のスローガンとして、「目標必達の考・動習慣を確立しよう」を掲げ、併せて、重点施策課題として以下の9項目を設定し、遂行することいたしました。

- ① JASTビジョン2020の達成に向けて、全社員が成果最大化にこだわり、目標達成の具体的方策を立て、有言実行する
- ② 執行役員からプロジェクトリーダーに至るまで、管理者は担当組織の最高責任者としての自覚の下、常に先頭に立って行動する
- ③ 報連相、きめ細かなチェック、緊密な対話、スピーディな行動といった基本動作を再徹底することで、トラブル0件を必達する
- ④ 受託開発は、業界最大手クラスのメーカー・ベンダーとのコンペに打ち勝ち、要件定義から開発・運用までのワンストップサービスの拡大で、プライムベンダーの地位を獲得する
- ⑤ GAKUENは、既存サービスの深耕、海外市場での事業展開、新プロダクトを核とする最新ソリューションの拡大で、文教ITにおける圧倒的リーダーになる
- ⑥ JMICSは、サービス分野の拡大、点検エンジンの性能向上、アライアンスのシナジー効果等により、高収益事業へと進化する
- ⑦ BankNeoは、投資の選択と集中、コスト削減の徹底、セールスパワーの強化で、業績回復の年度とする
- ⑧ 人事制度改革の継続と情報インフラの充実に注力し、社内環境やリスクマネジメントにおいても超一流へのステップを歩む
- ⑨ 全社員が担当業務のNo.1となり、上記の各方針の必達に向け精励する

#### (3) 対処方針及び具体的な取り組み状況等

上記課題に関する各事業の対処方針及び取り組み状況につきましては、主に以下のとおりとなっております。

まず、ソフトウェア事業においては、東京本社地区は、受託開発部門に金融、金融パッケージ製品「BankNeo」並びに新たなSIビジネス展開の為の新設組織を加えた5部門に再編するとともに、従来コンバージェンスビジネス（ビッグデータ等の分析、関連開発）を担ってきた部門を東京地域の医療情報サービス部門と合わせて、ビッグデータ関連部門として集約しております。大阪本社地区は、分野別に特化した3事業部体制とするとともに、金融関連部門は、受託開発ソリューションとBankNeoの開発組織を金融事業部として集約しております。これに加え、BankNeoは、東京、大阪の各SI部門のもとに開発組織を集約しつつ、全国展開の営業活動に特化した事業部を設置し、業績拡大を図っております。

次に、パッケージ事業においては、ソフトウェア事業と同様、東京、大阪の両本社地区にそれぞれ独立して設置した事業部を中心に、既存サービスの深耕、海外市場での事業展開、新プロダクトを核とする最新ソリューション

の拡大で、文教ITにおける圧倒的リーダーを目指すとともに、主力プロダクトの中国展開を本格的に推進する中国ビジネス推進室を新設しております。

次に、システム販売事業につきましては、既存ビジネスの拡大及びクラウド技術を利用した新たなビジネス基盤構築にも取り組み、業績の継続拡大を図ってまいります。

最後に、医療ビッグデータ事業につきましては、東京、大阪の地域別組織としつつ、相互連携を高め更なる事業成長を図るとともに、サービス分野の拡大、点検エンジンの性能向上、アライアンスのシナジー効果等により、高収益事業へと進化してまいります。

当社グループとしましては、上述の事業別戦略と重点施策を着実に実行し、受託開発型ビジネスの受注量増加及び収益性向上と、自社ブランド製品を核とする当社主導型ビジネスの一層の拡大を伴った継続的成長を目指してまいります。

#### 4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状態及び株価等に影響を及ぼす可能性のある事項には以下のものがあります。なお、文中における将来に関する事項は有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

##### ① 製品及びサービスの瑕疵等に係るリスク

ハードウェア及びネットワーク技術の進化、OSやミドルウェアと開発言語の進化、近年のクラウドに代表される新たな情報処理テクノロジーの急速な普及と変遷により、当社が開発に携わる情報システムは複雑化の一途をたどっております。一方で、製品やサービスの品質や欠陥等に対する社会的関心並びに社会的影響の高まりから、品質保証に関する顧客の要求水準は年々高くなっております。このような状況に対し当社グループでは、ソフトウェアの品質の向上及び安定化につきましては従業員教育の徹底、見積・受注プロセスにおける審査機能の強化、見積技術の向上並びにプロジェクト管理の充実を含め細心の注意を払っております。しかしながら、これらによっても瑕疵等の発生を完全に排除できない可能性があり、瑕疵等が発生した場合、お客様への補償、製品の補修等に伴う大きな不採算案件の発生並びに信用の低下により、当社グループの業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

##### ② 情報管理並びにその他不正、過失等に係るリスク

顧客及び従業員等に係る機密情報並びに個人情報の漏洩を始めとして、各種の過失による事故あるいは不正行為の防止については、社内規程の制定、従業員の教育、専門組織による定期的検査等によって徹底を図っておりますが、事故や不正行為等を100%防止することは困難であり、これら事故等の事象が発生した場合、当社グループの信用低下あるいは賠償責任等が発生し、さらには当社グループの業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

##### ③ 主要顧客への依存度に係るリスク

当社グループにおいては、上位販売先への売上が占める割合は比較的高水準であり、当連結会計年度においては売上高上位3社の連結売上高に占めるシェアが約21%、同じく上位5社では約27%となっております。従って、この特定顧客への収益の集中は近年緩和傾向ではあるものの、依然主要顧客の受注状況並びに当該顧客の属する業界等の環境変化によっては業績が大きく変動する可能性が考えられます。

#### 最近2年間における主要販売先

平成27年3月期			平成28年3月期		
販売先名	金額 (千円)	割合 (%)	販売先名	金額 (千円)	割合 (%)
エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)	1,021,979	8.9	エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)	1,369,203	11.6
(株)ダスキン	649,224	5.6	(株)ダスキン	568,808	4.8
T I S(株)	525,172	4.6	T I S(株)	527,626	4.5
(株)大塚商会	364,536	3.2	(株)大塚商会	349,724	3.0
富士通(株)	335,659	2.9	(株)富士通システムズ・ウエスト	343,531	2.9
上記5社合計	2,896,572	25.2	上記5社合計	3,158,893	26.7
その他合計	8,608,532	74.8	その他合計	8,662,189	73.3
合計	11,505,104	100.0	合計	11,821,083	100.0

(注) 平成26年7月1日よりエヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)は、エヌ・ティ・ティ・コムウェア西日本(株)を含む地域グループ5社を吸収合併しております。これに伴い、前連結会計年度におけるエヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)向けの販売実績は、エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)及びエヌ・ティ・ティ・コムウェア西日本(株)向けの販売実績を集計して表示しております。



④ 収益の期末集中に係るリスク

当社グループの事業であるソフトウェアの受託開発及びパッケージ並びに機器販売の特異性としまして、顧客による製品等の検収時期が多くの企業の会計期末にあたる3月に集中し、下表のとおり第4四半期に売上高及び営業利益が偏る傾向にあります。従って、開発工程の延長、顧客の予算執行状況並びに製品等受入検査の進行状況等に起因する収益計上の延期により、業績が変動する可能性があります。

最近2年間における四半期ごとの売上高、営業利益

(単位：百万円)

平成27年3月期					
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
売上高	2,678	2,746	2,574	3,506	11,505
営業利益 (△は営業損失)	△11	90	△172	456	363

(単位：百万円)

平成28年3月期					
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
売上高	2,528	3,030	2,458	3,804	11,821
営業利益 (△は営業損失)	△76	111	△152	518	401

⑤ 資産の評価に係るリスク

当社グループでは、投資その他の資産として、有価証券及び賃貸不動産等を保有しております。これら資産の残高は、換金性の高い流動資産と比較して相当に少額ではありますが、予測が困難な市況の急変あるいは発行体の破綻等の事態が発生した場合、評価額の減少によって業績に影響を与える可能性があります。

⑥ 大規模自然災害に係るリスク

大地震等の自然災害の発生により、当社グループの主要な事業所等が壊滅的な損害を被った場合や従業員の多くが被害を受けた場合は、その修復あるいは対応のために巨額な費用を要する等当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

当連結会計年度における研究開発費の総額は3億46百万円となっております。なお、セグメント別の研究開発活動は次のとおりであります。

ソフトウェア事業におきまして自社ブランドの製品及びサービスの拡大を図った結果、研究開発費は54百万円となりました。

次にパッケージ事業におきまして大学向け統合業務パッケージの新製品開発に取り組んだ結果、研究開発費は2億39百万円となりました。

最後に医療ビッグデータ事業におきましてレセプト自動点検性能の向上並びにサービスの拡充を中心に取り組んだ結果、研究開発費は52百万円となりました。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては合理的な基準に基づき会計上の見積りを行っております。

### (2) 財政状態の分析

当連結会計年度末における資産、負債及び純資産の状況につきましては、次のとおりであります。

#### (資産)

流動資産の残高は65億97百万円（前連結会計年度末比6.4%増）となりました。これは主として期末の売上増加に伴う売上債権の増加並びに現金及び預金の減少によるものであります。また、固定資産の残高は24億22百万円（同3.8%減）となりました。

#### (負債)

流動負債の残高は22億65百万円（同11.8%増）となりました。これは主として支払手形及び買掛金並びに前受金の増加によるものであります。また、固定負債の残高は13億6百万円（同3.8%増）となりました。これは主として退職給付に係る負債及び役員退職慰労引当金の増加によるものであります。

#### (純資産)

純資産の合計残高は54億48百万円（同0.3%増）となりました。これは主として利益剰余金の増加及び退職給付に係る調整累計額の減少によるものであります。

### (3) 経営成績の分析

経営成績の状況につきましては、「第2 事業の状況 1. 業績等の概要 (1) 業績」に記載のとおりであります。

#### (4) キャッシュ・フローの状況の分析

キャッシュ・フローの状況につきましては、「第2 事業の状況 1. 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりです。また、キャッシュ・フロー関連指標の推移は、以下のとおりであります。

##### キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期	平成27年3月期	平成28年3月期
自己資本比率 (%)	59.2	55.0	56.6	61.4	59.8
時価ベースの自己資本比率 (%)	38.7	38.2	39.0	50.0	38.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	0.0	0.1	0.0	—	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	178.8	89.1	228.6	—	—

(注) 1. 各指標の算出式は下記のとおりであります。

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

・株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除）により算出しております。

・有利子負債は、連結貸借対照表に記載されている借入金の合計額を使用しております。

・利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

2. 平成27年3月期及び平成28年3月期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオにつきましては、営業キャッシュ・フローがマイナスのため、記載しておりません。

#### (5) 経営戦略の現状と見通し

幅広い分野に展開すると同時に個々の分野には深く特化し、かつ最新技術にはいち早く取り組みを図る事業戦略により、特定産業の好・不況の波や技術トレンドの変遷といった環境変化に左右されない安定性を保ちつつ、同時に長期的成長を狙うことができる点が、当社の特徴であり強みであると考えております。

しかしながら、昨今の不透明な景況下、中でも環境変動が激しいIT業界にあって、これまで業界の主力の収益源であった受託型開発ビジネスに大きく依存した業態では、将来に渡っての成長の実現は困難になるものと認識しております。

こうした認識のもと、当社グループでは「JASTビジョン2020」を策定し、中長期的な経営の基本方針を掲げております。具体的には、受託開発ビジネスにおいては、ソリューション営業の強化によるエンドユーザーとの直接契約の拡大に注力しつつ、製造工程のマネジメント力の強化及びオフショア開発の推進等を進めることで製造原価の低減を図り、併せて国内最大のマーケットである東京地区における体制強化を推進し、同エリアでの受注量増加を実現することにより、同ビジネス全体の収益性向上を目指します。また、自ら顧客やニーズを創造できる自社ブランドビジネスを拡大するため、GAKUEN、JMICS、BankNeoといった既存ブランドについては一層の製品・サービス拡大を図るとともに、新たなブランドを継続的に発信するための研究開発を続ける所存です。また、こうした活動に加え、グローバル化並びにM&Aを含めたアライアンスの拡大等を通じて、全売上高における自社ブランドビジネスの比率を50%程度にまで成長させたく考えております。併せて、引き続きプロジェクト管理技術の向上並びにソリューションメニューの充実による高付加価値化、業界トップレベルの人材輩出に直結する教育・人事制度の導入等にも取り組み、成長基盤のさらなる強化拡大に繋げる所存です。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度におきましては52百万円の設備投資を実施しており、各セグメントにおける内容は以下のとおりとなっております。

ソフトウェア事業におきましては、最新サーバーコンピュータ及び開発ツール導入のため、29百万円の設備投資を実施いたしました。

パッケージ事業におきましては、主力の戦略的営業システムを核としたサービスの充実並びに新製品開発に向けた機器導入等のため、6百万円の設備投資を実施いたしました。

システム販売事業におきましては、新製品販売に向けた機器導入等のため、3百万円の設備投資を実施いたしました。

医療ビッグデータ事業におきましては、自動レセプト点検データの処理量増加に伴う機器導入のため、3百万円の設備投資を実施いたしました。

また、特定の事業に直接係らない設備投資として、主として事務所のセキュリティ強化並びに作業効率の向上を目的とした機器導入のため、9百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

(注) 設備投資金額には、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

## 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

### (1) 提出会社

平成28年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
大阪本社 (大阪市北区)	ソフトウェア事業、 パッケージ事業及び 医療ビッグデータ事業	事務所及び開 発設備	91,632	—	37,696	129,328	291
大阪本社 (大阪市北区)	特定の事業に属さない	事務所及び事 務処理機器	56,724	—	117,054	173,778	42
東京本社 (東京都港区)	ソフトウェア事業、 パッケージ事業及び 医療ビッグデータ事業	事務所及び開 発設備	—	—	10,279	10,279	276
東京本社 (東京都港区)	特定の事業に属さない	事務所及び事 務処理機器	90,354	—	22,582	112,937	15
北品川事業所 (東京都品川区)	医療ビッグデータ事業	事務所及び事 務処理機器	2,014	—	633	2,648	9
大宮オフィス (さいたま市大宮区)	医療ビッグデータ事業	事務所及び事 務処理機器	1,338	—	113	1,451	—
研修施設兼社員寮 (大阪府枚方市)	特定の事業に属さない	従業員福利厚 生施設	52,341	142,361 (1,579.92)	67	194,771	—
収益マンション (兵庫県尼崎市)	特定の事業に属さない	収益 マンション	63,403	64,929 (294.60)	—	128,333	—

(注) 1. 大阪本社及び東京本社については建物の一部を賃借しております。年間の賃借料は399,400千円であります。

2. 収益マンションは、賃貸用不動産であります。

3. 帳簿価額の「その他」は、主に開発用コンピュータ等工具器具備品及びソフトウェアであります。なお、金額には消費税等を含めておりません。

### (2) 国内子会社

平成28年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
アルファコンピ ュータ株式会社 (注)	本社 (東京都品川区)	システム販売事業 及びパッケージ事 業	事務所及び 開発設備	11,749	—	5,513	17,262	41
SafeNeeds 株式会社 (注)	本社 (大阪市北区)	ソフトウェア事業	事務所及び 開発設備	—	—	0	0	17

(注) 本社事務所は、建物の一部を賃借しております。

## (3) 在外子会社

平成28年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
JAST TECHNIQUES PTE. LTD. (注) 1、2	本社 (シンガポール 共和国)	ソフトウェア事業	事務所及び 開発設備	—	—	346	346	7
JASTEC (THAILAND) CO., LTD. (注) 1、2	本社 (タイ王国)	ソフトウェア事業	事務所及び 開発設備	—	—	2,412	2,412	16
桂林安信軟件 有限公司 (注) 2	本社 (中華人民 共和国)	ソフトウェア事業	事務所及び 開発設備	—	—	2,441	2,441	39

- (注) 1. 従業員数には、当社からの出向者(1名)を含んでおります。  
2. 本社事務所は、建物の一部を賃借しております。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資計画については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的にグループ各社が個別に策定し、提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備投資計画（新設、改修）は、1億56百万円であり、セグメントごとの主な内訳は次のとおりであります。

## (1) 重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金 調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
日本システム技術㈱ (東京本社)	東京都 港区	医療ビッグ データ事業	データ点検設備	3,216	—	自己資金	平成28年4月	平成29年3月	点検及び 分析品質 の向上
日本システム技術㈱ (大阪本社)	大阪市 北区	パッケージ 事業	システム開発設備	9,000	—	自己資金	平成28年7月	平成29年3月	システム 開發生産 力の向上
日本システム技術㈱ (大阪本社)	大阪市 北区	特定の事業 に属さない	ネットワーク環境 の整備	128,339	—	自己資金	平成28年4月	平成29年3月	作業効率 の向上
日本システム技術㈱ (大阪本社)	大阪市 北区	特定の事業 に属さない	社内システムの構 築	4,500	—	自己資金	平成29年1月	平成29年3月	作業効率 の向上
日本システム技術㈱ (大阪本社)	大阪市 北区	特定の事業 に属さない	事務所の増床に伴 う什器・備品	11,610	—	自己資金	平成28年4月	平成29年3月	作業効率 の向上

- (注) 1. 金額には消費税等を含みません。  
2. 経常的な設備更新のための除却・売却を除き、重要な設備の除却・売却の計画はありません。

## (2) 重要な改修

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成28年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成28年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,612,230	5,612,230	東京証券取引所 (市場第二部)	権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は100株でありま す。
計	5,612,230	5,612,230	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年4月1日～ 平成24年3月31日 (注)	8,500	5,111,730	1,978	919,665	1,978	881,304
平成24年4月1日～ 平成25年3月31日 (注)	16,600	5,128,330	4,558	924,223	4,558	885,862
平成25年4月1日～ 平成26年3月31日 (注)	465,900	5,594,230	147,222	1,071,446	147,222	1,033,084
平成26年4月1日～ 平成27年3月31日 (注)	18,000	5,612,230	5,223	1,076,669	5,223	1,038,308

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

## (6) 【所有者別状況】

平成28年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	－	4	16	18	11	2	2,654	2,705	－
所有株式数 (単元)	－	1,214	629	14,944	1,904	19	37,402	56,112	1,030
所有株式数の 割合（%）	－	2.16	1.12	26.63	3.39	0.03	66.66	100.00	－

(注) 自己株式364,210株は、「個人その他」に3,642単元及び「単元未満株式の状況」に10株を含めて記載しております。

## (7) 【大株主の状況】

平成28年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
株式会社ジャスト	堺市西区浜寺昭和町5-601-1	1,450,100	25.84
日本システム技術従業員持株会	大阪市北区中之島2-3-18	707,540	12.61
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL (常任代理人 シティバンク銀行株式 会社)	東京都新宿区新宿6-27-30	144,100	2.57
平林 卓	堺市西区	139,320	2.48
平林 武昭	堺市西区	87,600	1.56
玉村 剛史	東京都港区	73,200	1.30
丸山 眞道	京都府京田辺市	60,610	1.08
堀 正憲	京都府八幡市	56,700	1.01
永緑 忠夫	兵庫県西宮市	54,800	0.98
山本 修	千葉県印西市	54,150	0.96
計	－	2,828,120	50.39

(注) 上記のほか当社所有の自己株式364,210株（6.5%）があります。



(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 364,200	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 5,247,000	52,470	—
単元未満株式	普通株式 1,030	—	—
発行済株式総数	5,612,230	—	—
総株主の議決権	—	52,470	—

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式10株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
日本システム技術 株式会社	大阪市北区中之島 二丁目3番18号	364,200	—	364,200	6.49
計	—	364,200	—	364,200	6.49

(注) 上記のほか、当社所有の単元未満自己株式10株があります。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間（注）	
	株式数（株）	処分価額の総額（円）	株式数（株）	処分価額の総額（円）
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	364,210	—	364,210	—

（注）当期間における保有自己株式数には、平成28年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

## 3 【配当政策】

配当につきましては、業績と同様に長期的安定的に成長することを基本方針とし、配当性向に配慮しつつ、各期の業績動向、財務状況及び各種環境を勘案して具体的方針並びに金額を検討しております。また、留保利益につきましては、プロフェッショナル人材の育成、新ビジネスの創生、各種アライアンスの推進並びに新製品の研究開発等に有効投資したく考えております。

配当の基準日につきましては、毎年9月30日及び3月31日を基準日とする従来どおりの方針を基本とするほか、別途基準日を定めて配当を行うことができるものとしております。これら配当の決定機関につきましては、取締役会の決議によって配当できる旨を定款にて定めております。

当連結会計年度に係る配当金につきましては、年度の業績等を勘案し、25円の配当を実施いたしました。

また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

なお、基準日が当連結会計年度に属する剰余金の配当の取締役会の決議年月日、配当金の総額及び1株当たりの配当額は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（千円）	1株当たりの配当額（円）
平成28年5月19日 取締役会決議	131,200	25

#### 4 【株価の推移】

##### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第40期	第41期	第42期	第43期	第44期
決算年月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
最高(円)	649	722	833	1,172	877
最低(円)	486	533	601	610	592

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

##### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成27年10月	11月	12月	平成28年1月	2月	3月
最高(円)	810	846	855	843	767	702
最低(円)	760	800	811	680	592	630

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

## 5 【役員 の 状 況】

男性10名 女性一名 (役員のうち女性の比率-%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(千株)
代表取締役社長	—	平林 武昭	昭和13年4月23日生	昭和48年3月 当社設立 代表取締役 平成17年4月 当社代表取締役社長執行役員 (現任)	(注)4	87.60
取締役	—	大門 紀章	昭和35年2月11日生	平成11年2月 当社入社 平成15年4月 当社財務部長 平成17年4月 当社執行役員財務部長 平成19年6月 当社取締役執行役員財務部長 平成22年6月 当社取締役執行役員本社管理部門担当、財務部長 平成26年4月 当社取締役執行役員本社管理部門担当 (現任) グローバルマネジメント担当 (現任)	(注)4	10.70
取締役	—	伴 浩明	昭和36年1月13日生	昭和56年1月 当社入社 平成10年4月 当社東京本部第一システム部長 平成12年4月 当社第三システム事業部長 平成14年4月 当社第三ソリューション事業部長 平成16年4月 当社東京事業本部第一ソリューション事業部長 平成17年4月 当社執行役員東京営業本部長 平成18年4月 当社執行役員GAKUEN副事業部長 平成18年10月 アルファコンピュータ株式会社常務執行役員 (出向) 平成22年6月 同社取締役常務執行役員 (出向) 平成23年4月 当社執行役員東京ソフトウェア担当、東日本ソフトウェア事業部長 平成24年6月 当社取締役執行役員東京ソフトウェア担当、東日本ソフトウェア事業部長 平成25年4月 当社取締役執行役員東京地区担当 平成26年4月 当社取締役執行役員東日本地区担当、医療ビッグデータ事業担当、特命プロジェクト担当 平成27年4月 当社取締役執行役員東日本地区担当、医療ビッグデータ事業担当 平成28年4月 当社取締役執行役員東日本地区担当 (現任)、ビッグデータ事業担当 (現任)	(注)4	16.20
取締役	—	佐々木 優	昭和33年2月18日生	昭和53年1月 当社入社 平成6年4月 当社事務システム本部事務システム開発3部長 平成7年4月 当社第二システム本部長 平成8年4月 当社第二システム部長 平成9年4月 当社営業部長 平成11年4月 当社GAKUEN事業部長 平成12年4月 当社第一システム事業部長 平成14年4月 当社第一ソリューション事業部長 平成16年4月 当社大阪事業本部第二ソリューション事業部長 平成17年4月 当社執行役員GAKUEN事業部長 平成19年4月 当社執行役員GAKUEN事業部副事業部長 平成21年4月 当社執行役員GAKUEN事業部長 平成22年6月 当社取締役執行役員パッケージ事業担当、GAKUEN事業部長 平成23年4月 当社取締役執行役員文教・金融事業担当 平成24年4月 当社取締役執行役員大阪本社担当 平成25年4月 当社取締役執行役員大阪地区担当 平成26年4月 当社取締役執行役員西日本地区担当、金融事業担当 平成28年6月 当社取締役執行役員西日本地区担当 (現任)、金融事業担当 (現任)、JMICS事業担当 (現任)	(注)4	29.30

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	—	土屋 祐二	昭和37年6月8日生	昭和58年3月 当社入社 平成24年4月 当社執行役員GAKUEN事業部長 平成26年4月 当社執行役員GAKUEN事業担当 平成28年6月 当社取締役執行役員GAKUEN事業担当 (現任)	(注)4	2.00
取締役	—	中村 俊一	昭和23年10月22日生	平成9年10月 株式会社ビー・エヌ・アイ設立 代表取締役 (現任) 平成12年1月 無錫華夏計算機技術有限公司設立 董事長 平成25年6月 BUSINESS NETWORK INSTITUTE LTD. (バン グ ラデシュ) 設立 会長 (現任) 平成25年8月 BANGLAFIRE SOLUTION LTD. (バン グ ラデ シュ) 設立 会長 (現任) 平成27年6月 当社社外取締役 (現任)	(注)4	—
取締役	—	山科 裕	昭和23年10月30日生	昭和56年12月 日本合同ファイナンス株式会社 (現、株式 会 社 ジ ャ フ コ) 入社 昭和62年2月 ソシエテジェネラル証券株式会社入社 昭和63年4月 監査法人朝日新和会計社 (現、有限責任あ ず さ 監 査 法 人) 入所 平成6年6月 株式会社ビジネスデザイン設立 代表取締役 (現任) 平成28年6月 当社社外取締役 (現任)	(注)4	—
常勤監査役	—	園田 勝朗	昭和33年6月13日生	昭和53年12月 当社入社 平成6年4月 学校事務システム開発部長 平成7年4月 GAKUEN事業室長 平成9年4月 パッケージ事業室長 平成10年4月 品質向上推進室長 平成11年4月 アウトソーシング部 プロジェクト担当部長 平成12年4月 CS事業部長 平成16年4月 第三ソリューション事業部長 平成20年4月 GAKUEN事業部 東日本CR部長 平成23年4月 文教事業部 文教ソリューション部長 平成25年4月 文教事業部 ソリューションセンター長 平成26年6月 当社常勤監査役 (現任)	(注)5	15.10
監査役	—	妙中 茂樹	昭和36年9月10日生	昭和60年8月 青山監査法人大阪事務所 入所 平成元年10月 妙中幹男公認会計士事務所 入所 平成7年6月 西本産業株式会社 (現 キヤノンライフケ ア ソ リ ュ ー シ ョ ン ズ 株 式 会 社) 社外監査役 平成18年1月 妙中茂樹公認会計士事務所所長 (現任) 平成21年6月 当社社外監査役 (現任)	(注)6	—
監査役	—	最上 次郎	昭和53年8月2日生	平成19年11月 福岡県弁護士会登録 弁護士法人奔流 入所 平成23年2月 長崎県弁護士会登録変え 山下・川添総合法律事務所 入所 平成25年7月 大阪弁護士会登録変え カノン法律事務所 入所 平成26年6月 当社社外監査役 (現任)	(注)5	—
計						160.90

- (注) 1. 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、また、能力主義に基づく積極的な人材の登用のため、執行役員制度を導入しております。
2. 取締役中村俊一、山科裕は、社外取締役であります。
3. 監査役妙中茂樹、最上次郎は、社外監査役であります。
4. 平成28年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から1年間であります。
5. 平成27年6月19日開催の定時株主総会の終結の時から4年間あります。
6. 平成28年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間あります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

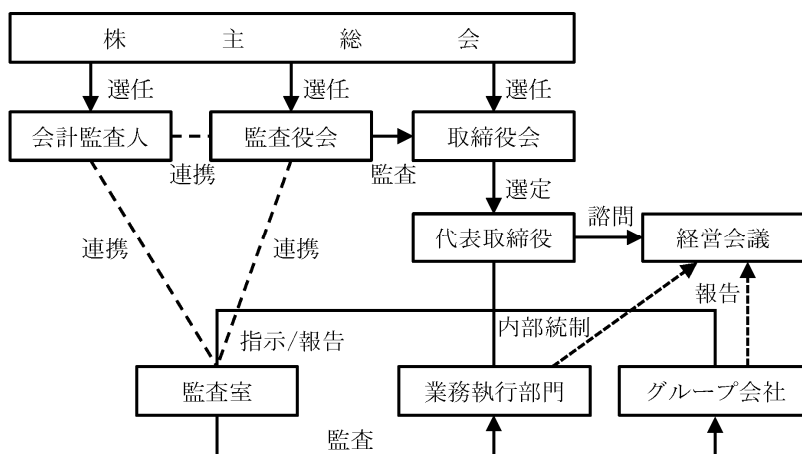
#### ① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

コーポレート・ガバナンスの根本精神を踏まえ、当社では、現在の経済環境に則したあるべき経営を目指して企業の統治を進めたいと考え、買い手・売り手・出資者・世間がそれぞれwin-win（双方有益）の関係を築くべく、お客様、株主の皆様、社員、社会の「四方よし」の理念を掲げ、それぞれの価値を最大化し、中長期的な企業価値の向上と持続的な会社の成長を実現させたいと考えております。今後も、必要な各方面のご意見を真摯に受け止めながら、各役員が現状に果敢に挑戦しつつ、会社を変革し続けてまいります所存であります。

#### ② 企業統治の体制

##### イ. 企業統治の体制の概要

当社のコーポレート・ガバナンス体制の概略模式図は、下記のとおりであります。



当社では、各々の専門分野を有する監査役会メンバーが、取締役の職務の執行全般に対し多角的に監査することを狙いとして、監査役制度を採用しており、会社の機関としては、株主総会及び取締役のほか、取締役会、監査役、監査役会、会計監査人を置き、代表取締役の諮問機関として経営会議を設置しております。

取締役会は、経営の重要な意思決定を行うため毎月開催しております。監査役会は、監査方針及び各監査役の職務分担を決定し、取締役の職務執行状況や内部統制システムの整備・運用状況に対する各監査役の監査結果を協議するため、定例的に開催されております。経営会議は、重要な経営課題を審議するために原則として毎月開催しております。また、経営の意思決定及び監督機能と業務執行を分離するため、執行役員制度を導入し、取締役会の監督機能の強化と執行役員による、より機動的な業務執行を図っております。

##### ロ. 企業統治の体制を採用する理由

上記イ. の体制の下で、当社事業に精通した各取締役が各々の事業分担を明確にし、事業の運営に当たることにより、変化への迅速な対応が可能になると考えております。また、社外監査役を含む監査役は、取締役会を始め社内の重要な会議に出席し、経営の諸活動全般並びに業務の執行状況の適法性、適正性を監査することを通じて、経営監視機能の充実に努めております。こうした企業統治の観点から現体制を採用しております。

##### ハ. 内部統制システムの整備の状況

内部統制システムについては、過去より社内規程の整備、相互牽制が有効に機能する組織編成、内部監査による評価・改善等適時整備を図っており、会計監査においても、通常の監査手続の一環として、内部統制の整備状況及び運用状況に関する指摘等について実施されております。当連結会計年度については、平成20年4月より内部統制評価並びに内部統制監査に係る制度が適用開始となったことを受け、関連業務プロセスの文書化、統制状況の点検及び内部監査での検証による評価等、同制度への完全準拠を図っております。

##### ニ. リスク管理体制

リスク管理の状況としましては、万一の緊急事態の発生時には、リスク管理規程に従い、事実確認・調査から対策本部の設置並びに事態収拾に至る一連の手順についての迅速な遂行を図っております。

##### ホ. 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、子会社の経営について各社の自主性を尊重しつつも、社内規程に則り、子会社から当社の取締役会及び経営会議に対して定期的に営業報告、財務報告等を行い、各社の経営状況を把握しております。また、当社の内部監査部門は子会社の監査も実施します。

##### ヘ. 責任限定契約の内容の概要

当社は、2名の社外取締役及び2名の社外監査役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役、社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

③ 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査につきましては、他部門から独立した組織である監査室（人員2名）が年間を通じて計画的にこれを実施し、各部門の所管業務が法令及び社内諸規程等に従い適切かつ有効に運営されているか否かを監査し、会社の財産の保全及び経営効率の向上に資することを目的としております。また、監査役会及び会計監査人と適時監査情報を交換し、効率的な内部監査の実施に努めております。

また、監査役監査につきましては、監査役が取締役会に出席し、独立性の高い立場からの意見表明を行うことにより、経営管理の健全化に努めております。

④ 会計監査の体制

金融商品取引法に基づく連結財務諸表等の会計監査につきましては、平成13年11月のジャスダック上場以前より継続して有限責任監査法人トーマツに依頼しており、当連結会計年度につきましては、吉村祥二郎氏、井上嘉之氏の2名の業務執行社員及び10名の主要監査従事者（公認会計士5名、その他5名）の計12名により監査が行われております。また、通常の会計監査に加えて重要な会計的課題についても適宜、意見交換をしております。

⑤ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

社外取締役及び社外監査役の選任にあたっては、東京証券取引所が定める独立役員の独立性に関する判断基準等を参考としております。東京証券取引所が定める「独立役員の確保に係る実務上の留意事項」に定める独立性基準を踏まえた上で、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に貢献できる人物を候補者として選定することを基本方針としております。

社外取締役は、国内及び海外における会社経営の経験者であり、取締役会をはじめとする重要な会議に出席し、豊富な知識や経験に基づいた助言・提言・意見を表明することで、当社の意思決定の妥当性や適正性を確保する役割を担っております。

社外監査役は、経営陣と直接の利害関係がない独立した立場から取締役会への出席等を通じて取締役の職務執行の状況について監督し、経営監視の実効性を高め、当社の企業統治及び企業価値の向上に役割を果たしております。なお、社外監査役は会社法に定める全監査役の過半数を常に選任することを継続する考えであります。

⑥ 役員報酬の内容

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	108,029	82,629	11,418	13,982	4
監査役 (社外監査役を除く。)	13,706	10,638	1,558	1,510	1
社外役員	4,476	3,360	620	496	3

(注)退職慰労金は当事業年度に係る役員退職慰労引当金繰入額であります。

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員報酬は、業績連動型報酬体系を採用しております。具体的には、社員の賃金水準と過大な乖離が生じないように考慮し設計された役員の役職別業績評価ランク別報酬テーブルに基づき、代表取締役社長の各役員に対する評価をもとに、取締役は取締役会の決議により決定しております。また、監査役は監査役会の協議により決定しております。

⑦ 株式の保有状況

保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金の 合計額	売却損益の 合計額	評価損益の 合計額
非上場株式	—	—	—	—	—
上記以外の株式	269,680	247,765	6,141	—	42,946 (117)

(注) 「評価損益の合計額」の( )は外書きで、当事業年度の減損処理額であります。

⑧ 取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨定款に定めております。

⑨ 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、解任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

⑩ 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑪ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑫ 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の責任につき、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を行うにつき、期待される役割を十分に発揮できるようにしたものであります。



(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	32	—	33	1
連結子会社	—	—	—	—
計	32	—	33	1

② 【その他重要な報酬の内容】

（前連結会計年度及び当連結会計年度）

特記すべき事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

（前連結会計年度）

特記すべき事項はありません。

（当連結会計年度）

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、子会社株式の取得に係る財務調査業務であります。

④ 【監査報酬の決定方針】

監査公認会計士等に対する報酬は前事業年度の監査業務における監査従事者の人数、執務日数等の実績を参考に、当該事業年度の業務特性を勘案した上で社内規程に定められた決裁手続きを経て報酬額を決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。  
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同法人が開示している資料の閲覧やセミナーへの参加等により、必要な情報の収集に努めております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,762,276	2,436,624
受取手形及び売掛金	2,783,536	3,436,003
商品及び製品	59,362	78,434
仕掛品	278,704	326,978
原材料及び貯蔵品	3,066	2,692
繰延税金資産	202,070	191,764
その他	116,390	129,132
貸倒引当金	△4,519	△4,139
流動資産合計	6,200,887	6,597,491
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	612,788	616,203
減価償却累計額	△271,071	△310,047
建物及び構築物（純額）	※2 341,716	※2 306,156
土地	※2 142,361	※2 142,361
その他	288,023	284,375
減価償却累計額	△189,891	△208,302
その他（純額）	98,131	76,072
有形固定資産合計	582,210	524,591
無形固定資産		
のれん	18,001	10,001
ソフトウェア	149,314	120,195
その他	7,189	7,189
無形固定資産合計	174,505	137,385
投資その他の資産		
投資有価証券	580,032	564,136
退職給付に係る資産	481,576	447,426
繰延税金資産	57,219	65,580
差入保証金	342,917	376,493
その他	※1, ※2 352,690	※1, ※2 351,708
貸倒引当金	△54,288	△45,119
投資その他の資産合計	1,760,149	1,760,225
固定資産合計	2,516,865	2,422,202
資産合計	8,717,753	9,019,694

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	751,992	907,911
短期借入金	23,367	—
1年内返済予定の長期借入金	1,800	—
未払法人税等	84,486	104,706
賞与引当金	446,267	419,637
役員賞与引当金	20,624	20,935
工事損失引当金	—	6,079
その他	697,818	805,784
流動負債合計	2,026,357	2,265,055
固定負債		
役員退職慰労引当金	350,248	372,585
退職給付に係る負債	772,160	800,914
その他	135,979	132,686
固定負債合計	1,258,387	1,306,186
負債合計	3,284,745	3,571,242
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,076,669	1,076,669
資本剰余金	1,038,308	998,790
利益剰余金	3,299,968	3,460,641
自己株式	△266,539	△266,539
株主資本合計	5,148,407	5,269,562
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	61,263	50,966
為替換算調整勘定	△9,647	△14,352
退職給付に係る調整累計額	153,109	90,400
その他の包括利益累計額合計	204,724	127,013
非支配株主持分	79,875	51,875
純資産合計	5,433,007	5,448,452
負債純資産合計	8,717,753	9,019,694

## ②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
売上高	11,505,104	11,821,083
売上原価	※3 9,148,950	※3 9,254,306
売上総利益	2,356,154	2,566,777
販売費及び一般管理費	※1, ※2 1,992,473	※1, ※2 2,165,167
営業利益	363,681	401,609
営業外収益		
受取利息	10,041	7,262
受取配当金	6,219	6,141
為替差益	1,303	—
受取賃貸料	15,564	14,928
受取手数料	1,804	1,745
助成金収入	35,313	8,007
その他	13,875	13,888
営業外収益合計	84,123	51,975
営業外費用		
支払利息	1,610	2,023
賃貸費用	8,886	7,799
その他	1,347	2,590
営業外費用合計	11,844	12,413
経常利益	435,961	441,171
特別損失		
投資有価証券評価損	—	117
特別損失合計	—	117
税金等調整前当期純利益	435,961	441,053
法人税、住民税及び事業税	93,387	125,453
法人税等調整額	113,050	42,019
法人税等合計	206,437	167,473
当期純利益	229,523	273,580
非支配株主に帰属する当期純利益	944	△18,292
親会社株主に帰属する当期純利益	228,579	291,873

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
当期純利益	229,523	273,580
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,071	△10,296
為替換算調整勘定	14,073	△8,593
退職給付に係る調整額	61,958	△62,709
その他の包括利益合計	※1 85,103	※1 △81,598
包括利益	314,626	191,981
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	304,898	214,162
非支配株主に係る包括利益	9,728	△22,180

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,071,446	1,033,084	3,025,811	△266,539	4,863,803
会計方針の変更による累積的影響額			176,328		176,328
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,071,446	1,033,084	3,202,140	△266,539	5,040,131
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）	5,223	5,223			10,446
剰余金の配当			△130,750		△130,750
親会社株主に帰属する当期純利益			228,579		228,579
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	5,223	5,223	97,828	—	108,275
当期末残高	1,076,669	1,038,308	3,299,968	△266,539	5,148,407

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	52,191	△14,936	91,150	128,405	514	73,686	5,066,409
会計方針の変更による累積的影響額							176,328
会計方針の変更を反映した当期首残高	52,191	△14,936	91,150	128,405	514	73,686	5,242,738
当期変動額							
新株の発行（新株予約権の行使）							10,446
剰余金の配当							△130,750
親会社株主に帰属する当期純利益							228,579
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9,071	5,288	61,958	76,318	△514	6,189	81,993
当期変動額合計	9,071	5,288	61,958	76,318	△514	6,189	190,269
当期末残高	61,263	△9,647	153,109	204,724	—	79,875	5,433,007

当連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,076,669	1,038,308	3,299,968	△266,539	5,148,407
当期変動額					
剰余金の配当			△131,200		△131,200
親会社株主に帰属する当期純利益			291,873		291,873
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△39,517			△39,517
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	△39,517	160,672	－	121,155
当期末残高	1,076,669	998,790	3,460,641	△266,539	5,269,562

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	61,263	△9,647	153,109	204,724	79,875	5,433,007
当期変動額						
剰余金の配当						△131,200
親会社株主に帰属する当期純利益						291,873
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						△39,517
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△10,296	△4,704	△62,709	△77,710	△28,000	△105,710
当期変動額合計	△10,296	△4,704	△62,709	△77,710	△28,000	15,444
当期末残高	50,966	△14,352	90,400	127,013	51,875	5,448,452



## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	435,961	441,053
減価償却費	93,930	77,333
ソフトウェア償却費	25,888	37,450
のれん償却額	8,236	14,929
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△85,321	△26,473
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△14,344	34,150
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	44,784	29,630
受取利息及び受取配当金	△16,260	△13,404
支払利息	1,610	2,023
売上債権の増減額 (△は増加)	△173,400	△654,038
前受金の増減額 (△は減少)	35,888	125,419
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△75,918	△67,152
仕入債務の増減額 (△は減少)	△154,760	155,986
その他	△45,173	△71,783
小計	81,120	85,126
利息及び配当金の受取額	17,118	15,389
利息の支払額	△1,561	△1,956
法人税等の支払額	△301,019	△110,930
営業活動によるキャッシュ・フロー	△204,341	△12,370
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	181,033	206,411
有形固定資産の取得による支出	△133,643	△15,725
ソフトウェアの取得による支出	△17,322	△25,427
投資有価証券の取得による支出	△208,061	△2,278
連結の範囲の変更を伴う関係会社出資金の払込による支出	—	△2,007
差入保証金の差入による支出	△47,514	△35,915
資産除去債務の履行による支出	△27,864	—
その他	△28,611	△5,452
投資活動によるキャッシュ・フロー	△281,985	119,604
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	23,367	△21,893
リース債務の返済による支出	—	△11,507
長期借入金の返済による支出	△2,400	△1,800
株式の発行による収入	9,932	—
配当金の支払額	△130,750	△131,200
連結の範囲の変更を伴わない関係会社出資金の払込による支出	—	△48,000
非支配株主への配当金の支払額	△2,435	△2,324
その他	△134	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△102,420	△216,725
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,419	△2,758
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△584,327	△112,250
現金及び現金同等物の期首残高	2,144,070	1,559,743
現金及び現金同等物の期末残高	※1 1,559,743	※1 1,447,493

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 7社

連結子会社の名称

JAST TECHNIQUES PTE. LTD.  
JASTEC (THAILAND) CO., LTD.  
アルファコンピュータ株式会社  
株式会社新日本ニーズ  
SafeNeeds株式会社  
桂林安信軟件有限公司  
上海嘉峰信息科技有限公司

上記のうち、桂林安信軟件有限公司につきましては、実質支配力基準に基づき、平成24年7月2日付で既に当社の連結子会社となっておりますが、当連結会計年度に外資投資企業としての一連の手続きを終え、出資金の払込が完了したことで直接に議決権の過半数を保有しております。

また、上海嘉峰信息科技有限公司につきましては、当連結会計年度に出資金の払込を終え、外資投資企業としての一連の手続きが完了したため、新たに連結の範囲に含めております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用対象会社はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち在外連結子会社4社の決算日は平成27年12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、平成28年1月1日から連結決算日平成28年3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、国内連結子会社3社の決算日は、連結決算日と一致しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### イ 有価証券

##### ① 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

##### ② その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

##### ロ たな卸資産

##### ① 商品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

##### ② 製品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

##### ③ 仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

##### ④ 貯蔵品

最終仕入原価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を採用し、在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	10年～35年
その他	4年～10年

ロ 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）に基づく定額法を採用しております。

ハ リース資産

① 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

② 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

ニ 投資その他の資産(その他)

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は47年（建物）であります。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

当社及び連結子会社の一部は従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。

ハ 役員退職慰労引当金

当社及び国内連結子会社の一部は役員の退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

ニ 役員賞与引当金

当社及び連結子会社の一部は役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

ホ 工事損失引当金

受注製作ソフトウェア開発に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末において翌期以降に損失の発生が見込まれ、かつ、金額を合理的に見積もることができる契約について、損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定率法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定率法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

③ 未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

④ 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

受注製作ソフトウェアに係る収益及び原価の計上基準

① 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

② その他の契約

工事完成基準

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び預入期間が3ヵ月以内の定期預金からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

## (会計方針の変更)

### (企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。 ) 及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。 ) 等を当連結会計年度から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当連結会計年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する連結会計年度の連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、当期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前連結会計年度については、連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当連結会計年度末の資本剰余金が39,517千円減少しております。

当連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

当連結会計年度の連結株主資本等変動計算書の資本剰余金の期末残高は39,517千円減少しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

## (未適用の会計基準等)

### 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)

#### (1)概要

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」は、日本公認会計士協会における税効果会計に関する会計上の実務指針及び監査上の実務指針(会計処理に関する部分)を企業会計基準委員会に移管するに際して、企業会計基準委員会が、当該実務指針のうち主に日本公認会計士協会監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」において定められている繰延税金資産の回収可能性に関する指針について、企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積るという取扱いの枠組みを基本的に踏襲した上で、分類の要件及び繰延税金資産の計上額の取扱いの一部について必要な見直しを行ったもので、繰延税金資産の回収可能性について、「税効果会計に係る会計基準」(企業会計審議会)を適用する際の指針を定めたものであります。

#### (分類の要件及び繰延税金資産の計上額の取扱いの見直し)

- ・(分類1)から(分類5)に係る分類の要件をいずれも満たさない企業の取扱い
- ・(分類2)及び(分類3)に係る分類の要件
- ・(分類2)に該当する企業におけるスケジューリング不能な将来減算一時差異に関する取扱い
- ・(分類3)に該当する企業における将来の一時差異等加減算前課税所得の合理的な見積可能期間に関する取扱い
- ・(分類4)に係る分類の要件を満たす企業が(分類2)又は(分類3)に該当する場合の取扱い

#### (2)適用予定日

平成28年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用します。

#### (3)当該会計基準等の適用による影響

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「前受金の増減額」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた△9,285千円は、「前受金の増減額」35,888千円、「その他」△45,173千円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「差入保証金の回収による収入」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「差入保証金の回収による収入」に表示していた3,499千円は、「その他」として組み替えております。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(連結貸借対照表関係)

※1 投資その他の資産(その他)の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
	192,058千円	195,084千円

※2 担保に供している資産及び担保に係る債務  
担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
建物及び構築物(純額)	54,221千円	52,341千円
土地	142,361千円	142,361千円
投資その他の資産(その他)	131,359千円	128,333千円
計	327,942千円	323,037千円

(注) なお、担保に係る債務の残高はありません。

3 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
貸出コミットメントの総額	500,000千円	500,000千円
借入実行残高	－千円	－千円
差引額	500,000千円	500,000千円

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
役員報酬	136,122千円	137,390千円
賃金給料及び諸手当	787,436千円	905,656千円
賞与引当金繰入額	80,889千円	86,811千円
役員賞与引当金繰入額	18,940千円	19,287千円
役員退職慰労引当金繰入額	22,778千円	22,337千円
退職給付費用	32,779千円	35,425千円
研究開発費	269,095千円	346,315千円

※2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
	269,095千円	346,315千円

※3 売上原価に含まれる工事損失引当金繰入額

	前連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
	－千円	6,079千円

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	9,502千円	△17,203千円
組替調整額	－千円	117千円
税効果調整前	9,502千円	△17,085千円
税効果額	△431千円	6,789千円
その他有価証券評価差額金	9,071千円	△10,296千円
為替換算調整勘定：		
当期発生額	14,073千円	△8,593千円
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	113,910千円	△49,378千円
組替調整額	△29,156千円	△46,616千円
税効果調整前	84,753千円	△95,994千円
税効果額	△22,795千円	33,285千円
退職給付に係る調整額	61,958千円	△62,709千円
その他の包括利益合計	85,103千円	△81,598千円



(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式(注)	5,594,230	18,000	—	5,612,230
合計	5,594,230	18,000	—	5,612,230
自己株式				
普通株式	364,210	—	—	364,210
合計	364,210	—	—	364,210

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加18,000株は、新株予約権の権利行使による増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の 内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	平成23年 新株予約権	普通株式	509,000	—	509,000	—	—
合計		—	509,000	—	509,000	—	—

(注) 1. 目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載しております。

2. 平成23年新株予約権につきましては平成26年4月11日を以って行使期間が満了し、消滅しております。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年5月12日 取締役会	普通株式	130,750	25	平成26年3月31日	平成26年6月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年5月14日 取締役会	普通株式	131,200	利益剰余金	25	平成27年3月31日	平成27年6月5日

当連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	5,612,230	—	—	5,612,230
合計	5,612,230	—	—	5,612,230
自己株式				
普通株式	364,210	—	—	364,210
合計	364,210	—	—	364,210

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年5月14日 取締役会	普通株式	131,200	25	平成27年3月31日	平成27年6月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年5月19日 取締役会	普通株式	131,200	利益剰余金	25	平成28年3月31日	平成28年6月9日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
現金及び預金勘定	2,762,276千円	2,436,624千円
預入期間が3か月を 超える定期預金	△1,202,532千円	△989,131千円
現金及び現金同等物	1,559,743千円	1,447,493千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、必要な資金については主に自己資金で賄っておりますが、資金繰りの状況や金融情勢を勘案し、銀行からの借入によっても資金を調達しております。一時的な余資は元本保証、固定金利の預金等、安全性の高い金融資産に限定して運用しております。また、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが2ヵ月以内の支払期日であります。借入金は、主に運転資金に係る資金調達を目的としており、流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

与信管理規程に従い、担当部署が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先毎に期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

担当部署が適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（平成27年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,762,276	2,762,276	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,783,536	2,783,536	—
(3) 投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	205,502	203,200	△2,302
② その他有価証券	374,530	374,530	—
(4) 差入保証金	342,917	315,209	△27,707
資産計	6,468,762	6,438,753	△30,009
(1) 支払手形及び買掛金	751,992	751,992	—
(2) 短期借入金	23,367	23,367	—
(3) 1年内返済予定の長期借入金	1,800	1,800	—
(4) 未払法人税等	84,486	84,486	—
負債計	861,646	861,646	—

当連結会計年度（平成28年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,436,624	2,436,624	—
(2) 受取手形及び売掛金	3,436,003	3,436,003	—
(3) 投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	204,530	201,180	△3,350
② その他有価証券	359,605	359,605	—
(4) 差入保証金	376,493	371,691	△4,801
資産計	6,813,257	6,805,105	△8,152
(1) 支払手形及び買掛金	907,911	907,911	—
(2) 短期借入金	—	—	—
(3) 1年内返済予定の長期借入金	—	—	—
(4) 未払法人税等	104,706	104,706	—
負債計	1,012,618	1,012,618	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4) 差入保証金

差入保証金の時価は、将来返還されない保証金を控除した金額を、国債の利回りの利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 1年内返済予定の長期借入金、並びに(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度（平成27年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,762,276	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,783,536	—	—	—
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	—	200,000	—	—
其他有価証券のうち満期 があるもの				
債券	—	—	—	104,850
合計	5,545,812	200,000	—	104,850

当連結会計年度（平成28年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,436,624	—	—	—
受取手形及び売掛金	3,436,003	—	—	—
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	—	200,000	—	—
其他有価証券のうち満期 があるもの				
債券	—	—	111,840	—
合計	5,872,627	200,000	111,840	—

3. 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度（平成27年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	23,367	—	—	—	—	—
長期借入金	1,800	—	—	—	—	—
合計	25,167	—	—	—	—	—

当連結会計年度（平成28年3月31日）

該当事項はありません。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度 (平成27年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対 照表計上額を超え るもの	国債・地方債等	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
時価が連結貸借対 照表計上額を超え ないもの	国債・地方債等	—	—	—
	社債	205,502	203,200	△2,302
	その他	—	—	—
	小計	205,502	203,200	△2,302
合計		205,502	203,200	△2,302

当連結会計年度 (平成28年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対 照表計上額を超え るもの	国債・地方債等	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
時価が連結貸借対 照表計上額を超え ないもの	国債・地方債等	—	—	—
	社債	204,530	201,180	△3,350
	その他	—	—	—
	小計	204,530	201,180	△3,350
合計		204,530	201,180	△3,350

2. その他有価証券

前連結会計年度（平成27年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	176,501	102,647	73,854
	債券	104,850	81,327	23,523
	小計	281,351	183,974	97,377
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	93,179	100,010	△6,831
	債券	—	—	—
	小計	93,179	100,010	△6,831
合計		374,530	283,984	90,545

当連結会計年度（平成28年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	152,274	104,925	47,348
	債券	111,840	81,327	30,513
	小計	264,114	186,252	77,861
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	95,491	99,893	△4,402
	債券	—	—	—
	小計	95,491	99,893	△4,402
合計		359,605	286,145	73,459

3. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

該当事項はありません。

4. 減損処理を行ったその他有価証券

重要性がないため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職金規程に基づく退職一時金制度、確定給付型の企業年金制度及び確定拠出型の企業年金制度があります。また、当社は全国情報サービス産業厚生年金基金に加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は退職給付に関する会計基準33項の例外処理を行う制度であります。なお、要拠出額を退職給付費用として処理しており、当連結会計年度の連結財務諸表上、掛金拠出額31,141千円（前連結会計年度は30,349千円）を費用計上しております。

アルファコンピュータ株式会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、関東ITソフトウェア厚生年金基金に加入しており、要拠出額を退職給付費用として処理しており、当連結会計年度の連結財務諸表上、掛金拠出額1,426千円（前連結会計年度は1,540千円）を費用計上しております。

株式会社新日本ニーズは、中小企業退職金共済に加入しており、要拠出額を退職給付費用として処理しており、当連結会計年度の連結財務諸表上、掛金拠出額3,352千円（前連結会計年度は1,908千円）を費用計上しております。

なお、在外連結子会社のうち1社は、現地国制度に基づく退職金制度を採用しております。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

(全国情報サービス産業厚生年金基金)

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 (平成26年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成27年3月31日現在)
年金資産の額	636,261,314千円	744,963,870千円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	648,005,851千円	737,816,144千円
差引額	△11,744,536千円	7,147,726千円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度	0.42%	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当連結会計年度	0.44%	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、下記のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成27年3月31日現在)
過去勤務債務残高	△113,788千円	△88,702千円
当年度剰余金	－千円	7,236,428千円
繰越不足金	△11,630,748千円	－千円
合計	△11,744,536千円	7,147,726千円

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

(関東ITソフトウェア厚生年金基金)

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 (平成26年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成27年3月31日現在)
年金資産の額	252,293,875千円	299,860,983千円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	227,330,857千円	268,707,059千円
差引額	24,963,018千円	31,153,924千円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度	0.05%	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当連結会計年度	0.05%	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)



## (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、下記のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成27年3月31日現在)
別途積立金	19,332,813千円	24,963,018千円
当年度剰余金	5,630,204千円	6,190,906千円
合 計	24,963,018千円	31,153,924千円

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,671,278千円	1,468,150千円
会計方針の変更による累積的影響額	△273,802千円	－千円
会計方針の変更を反映した期首残高	1,397,476千円	1,468,150千円
勤務費用	121,808千円	124,141千円
利息費用	14,634千円	15,319千円
数理計算上の差異の発生額	△6,274千円	△3,336千円
退職給付の支払額	△60,688千円	△70,925千円
その他	1,193千円	△373千円
退職給付債務の期末残高	1,468,150千円	1,532,976千円

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
年金資産の期首残高	1,024,615千円	1,177,566千円
期待運用収益	25,615千円	29,439千円
数理計算上の差異の発生額	107,636千円	△52,715千円
事業主からの拠出額	45,210千円	46,367千円
退職給付の支払額	△25,511千円	△21,170千円
年金資産の期末残高	1,177,566千円	1,179,487千円

## (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	695,989千円	732,061千円
年金資産	△1,177,566千円	△1,179,487千円
	△481,576千円	△447,426千円
非積立型制度の退職給付債務	772,160千円	800,914千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	290,583千円	353,488千円
退職給付に係る負債	772,160千円	800,914千円
退職給付に係る資産	△481,576千円	△447,426千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	290,583千円	353,488千円

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

## (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
勤務費用	121,808千円	124,141千円
利息費用	14,634千円	15,319千円
期待運用収益	△25,615千円	△29,439千円
数理計算上の差異の費用処理額	△28,769千円	△46,308千円
過去勤務費用の費用処理額	△387千円	△307千円
確定給付制度に係る退職給付費用	81,670千円	63,405千円

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
過去勤務費用	△387千円	△307千円
数理計算上の差異	85,140千円	△95,687千円
合 計	84,753千円	△95,994千円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
未認識過去勤務費用	1,494千円	1,186千円
未認識数理計算上の差異	224,797千円	129,110千円
合 計	226,291千円	130,297千円

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
債券	53%	57%
株式	44%	40%
現金及び預金	3%	3%
合 計	100%	100%

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
割引率	1.07%	1.07%
長期期待運用収益率	2.5%	2.5%
一時金選択率	100%	100%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度68,913千円、当連結会計年度70,834千円です。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
繰延税金資産 (流動)		
賞与引当金	146,758千円	129,610千円
未払費用	21,642	19,541
未払金	17,455	14,523
未払事業税	9,489	11,617
その他	6,724	16,470
計	202,070	191,764
繰延税金資産 (固定)		
役員退職慰労引当金	114,389	115,370
退職給付に係る負債	247,140	242,844
貸倒引当金	17,556	26,692
賃貸不動産 (土地)	18,333	17,358
資産除去債務	28,492	27,343
未払金	14,623	184
その他	39,166	52,168
繰延税金資産小計	479,702	481,962
評価性引当額	△212,730	△234,877
計	266,972	247,084
繰延税金負債 (固定)		
その他有価証券評価差額金	29,282	22,493
退職給付に係る資産	155,398	137,001
その他	25,071	22,008
計	209,752	181,502
繰延税金資産の純額	57,219	65,580

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
法定実効税率	35.6%	33.1%
(調整)		
交際費等永久差異項目	1.9	2.0
住民税均等割	1.2	1.2
評価性引当額の増加	6.6	4.3
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	7.1	4.3
税額控除	△5.6	△7.6
その他	0.6	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.4	38.0

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成28年4月1日以降解消されるものに限る)に使用する法定実効税率は従来の32.3%から平成28年4月1日に開始する連結会計年度及び平成29年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については30.9%に、平成30年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、30.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は11,374千円減少し、法人税等調整額が14,878千円、その他有価証券評価差額金が1,263千円、退職給付に係る調整累計額が2,241千円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

重要性がないため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

主として当社の各事業所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年と見積り、割引率は主として1.273%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
期首残高	71,009千円	87,623千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	35,175千円	－千円
時の経過による調整額	1,738千円	1,001千円
資産除去債務の履行による減少額	△20,300千円	－千円
期末残高	87,623千円	88,625千円

(賃貸等不動産関係)

当社では、兵庫県において、賃貸用マンション（土地を含む。）を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は2,794千円（賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上）であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は3,373千円（賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	130,553	131,359
期中増減額	806	△3,025
期末残高	131,359	128,333
期末時価	142,248	128,859

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の増加額（806千円）及び当連結会計年度の減少額（3,025千円）は共に設備の改良に伴う増加と減価償却費による減少の増減の結果であります。

3. 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社及び子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開している「ソフトウェア事業」、「パッケージ事業」、「システム販売事業」及び「医療ビッグデータ事業」の4つを報告セグメントとしております。

「ソフトウェア事業」は、受注ソフトウェアの個別受託開発をしております。「パッケージ事業」は、学校業務改革パッケージの開発・販売及び関連サービスを提供しております。「システム販売事業」は、IT機器の販売及び情報通信インフラの構築をしております。「医療ビッグデータ事業」は、レセプトの自動点検・分析・医療費通知のトータルサービスを提供しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

(単位：千円)

	ソフトウェア事業	パッケージ事業	システム販売事業	医療ビッグデータ事業	合計	調整額 (注) 1 (注) 2	連結財務諸表 計上額 (注) 3
売上高							
1. 外部顧客への売上高	7,823,402	2,131,478	1,131,123	419,100	11,505,104	—	11,505,104
2. セグメント間の内部売上高 又は振替高	67,233	—	33,694	—	100,928	△100,928	—
計	7,890,636	2,131,478	1,164,817	419,100	11,606,033	△100,928	11,505,104
セグメント利益又は損失(△)	204,479	271,659	△28,990	△84,030	363,118	563	363,681
セグメント資産	4,434,169	1,393,463	825,288	355,084	7,008,006	1,709,746	8,717,753
その他の項目							
減価償却費	78,847	21,199	2,416	14,260	116,724	—	116,724
有形固定資産及び無形固定資産 の増加額	5,684	4,612	9,339	5,319	24,956	122,109	147,066

(注) 1. 調整額のセグメント利益又は損失は、セグメント間取引消去であります。

2. 調整額のセグメント資産は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

（単位：千円）

	ソフトウェア事業	パッケージ事業	システム販売事業	医療ビッグデータ事業	合計	調整額 (注) 1 (注) 2	連結財務諸表 計上額 (注) 3
売上高							
1. 外部顧客への売上高	8,080,536	2,117,057	1,039,010	584,479	11,821,083	—	11,821,083
2. セグメント間の内部売上高 又は振替高	125,909	—	14,378	—	140,288	△140,288	—
計	8,206,445	2,117,057	1,053,388	584,479	11,961,371	△140,288	11,821,083
セグメント利益又は損失（△）	203,703	218,686	5,467	△26,066	401,791	△181	401,609
セグメント資産	4,758,022	1,340,092	965,341	379,884	7,443,340	1,576,353	9,019,694
その他の項目							
減価償却費	73,863	23,706	2,691	11,497	111,758	—	111,758
有形固定資産及び無形固定資産 の増加額	29,321	6,724	3,165	3,728	42,940	9,720	52,660

（注）1. 調整額のセグメント利益又は損失は、セグメント間取引消去であります。

2. 調整額のセグメント資産は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

前連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

顧客の名称又は氏名	売上高（千円）	関連するセグメント名
エヌ・ティ・ティ・コムウェア㈱	1,021,979	ソフトウェア事業

当連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

顧客の名称又は氏名	売上高（千円）	関連するセグメント名
エヌ・ティ・ティ・コムウェア㈱	1,369,203	ソフトウェア事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

	ソフトウェア 事業	パッケージ 事業	システム 販売事業	医療ビッグ データ事業	全社・消去	合計
当期償却額	8,236	—	—	—	—	8,236
当期末残高	18,001	—	—	—	—	18,001

当連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

（単位：千円）

	ソフトウェア 事業	パッケージ 事業	システム 販売事業	医療ビッグ データ事業	全社・消去	合計
当期償却額	8,000	6,928	—	—	—	14,929
当期末残高	10,001	—	—	—	—	10,001

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
1株当たり純資産額	1,020円03銭	1,028円31銭
1株当たり当期純利益金額	43円56銭	55円62銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
1株当たり純資産額		
純資産の部の合計額(千円)	5,433,007	5,448,452
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	79,875	51,875
(うち非支配株主持分(千円))	(79,875)	(51,875)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	5,353,131	5,396,576
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	5,248,020	5,248,020

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	228,579	291,873
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	228,579	291,873
期中平均株式数(株)	5,247,753	5,248,020

(注) 「会計方針の変更」に記載のとおり、企業結合に関する会計基準等を適用し、当該会計基準等に定める経過的な取扱いに従っております。

この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額は7.53円減少しております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。



⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	23,367	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	1,800	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	10,286	10,286	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	—	—	—	—
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	41,144	30,858	—	—
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	76,598	41,144	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	10,286	10,286	10,286	—

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	2,528,227	5,558,484	8,016,741	11,821,083
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 又は税金等調整前四半期純損失金額(△)(千円)	△68,669	53,891	△90,413	441,053
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額 又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△) (千円)	△39,774	42,224	△79,055	291,873
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△7.58	8.05	△15.06	55.62

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△7.58	15.62	△23.11	70.68

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,943,231	1,724,616
受取手形	52,284	21,714
売掛金	※2 2,493,905	※2 2,971,606
商品及び製品	14,914	60,202
仕掛品	206,588	158,833
原材料及び貯蔵品	3,007	2,639
前払費用	96,353	100,888
繰延税金資産	185,926	167,508
未収入金	※2 1,735	※2 9,945
その他	9,877	13,552
貸倒引当金	△4,268	△3,687
流動資産合計	5,003,556	5,227,820
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 328,275	※1 294,375
構築物	※1 62	※1 30
工具、器具及び備品	85,636	66,092
土地	※1 142,361	※1 142,361
有形固定資産合計	556,335	502,860
無形固定資産		
ソフトウェア	152,810	122,335
電話加入権	6,180	6,180
無形固定資産合計	158,990	128,515
投資その他の資産		
投資有価証券	580,032	564,136
関係会社株式	997,367	997,367
関係会社出資金	—	61,447
長期貸付金	—	4,446
関係会社長期貸付金	26,232	49,998
前払年金費用	275,684	335,817
長期預金	100,000	100,000
繰延税金資産	121,223	94,768
差入保証金	310,756	344,580
賃貸不動産	※1 131,359	※1 128,333
会員権	45,324	45,324
保険積立金	65,587	67,868
その他	9,738	2,388
貸倒引当金	△67,404	△87,172
投資その他の資産合計	2,595,903	2,709,304
固定資産合計	3,311,228	3,340,679
資産合計	8,314,784	8,568,500

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	※2 555,967	※2 654,876
未払金	※2 158,282	※2 122,232
未払費用	193,427	205,504
未払法人税等	67,535	84,219
未払消費税等	145,043	148,114
前受金	61,883	58,050
賞与引当金	405,302	382,929
役員賞与引当金	13,124	13,596
工事損失引当金	—	6,079
その他	21,051	24,236
流動負債合計	1,621,619	1,699,838
固定負債		
退職給付引当金	756,168	776,498
役員退職慰労引当金	298,432	314,420
債務保証損失引当金	4,896	—
その他	130,548	127,244
固定負債合計	1,190,044	1,218,162
負債合計	2,811,664	2,918,001
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,076,669	1,076,669
資本剰余金		
資本準備金	1,038,308	1,038,308
資本剰余金合計	1,038,308	1,038,308
利益剰余金		
利益準備金	32,665	32,665
その他利益剰余金		
別途積立金	3,159,000	3,249,000
繰越利益剰余金	401,753	469,429
利益剰余金合計	3,593,418	3,751,094
自己株式	△266,539	△266,539
株主資本合計	5,441,856	5,599,532
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	61,263	50,966
評価・換算差額等合計	61,263	50,966
純資産合計	5,503,120	5,650,499
負債純資産合計	8,314,784	8,568,500

## ②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
売上高	9,682,373	10,160,749
売上原価	7,725,869	8,088,283
売上総利益	1,956,504	2,072,465
販売費及び一般管理費	※1 1,582,437	※1 1,658,136
営業利益	374,066	414,329
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	38,094	23,540
受取賃貸料	13,569	12,828
受取手数料	1,804	1,745
有価証券利息	2,793	3,695
助成金収入	20,637	8,007
債務保証損失引当金戻入額	—	4,896
その他	6,891	10,916
営業外収益合計	83,791	65,630
営業外費用		
支払利息	1,082	1,395
賃貸費用	8,886	7,799
債務保証損失引当金繰入額	4,896	—
貸倒引当金繰入額	13,116	29,506
その他	1,758	3,282
営業外費用合計	29,739	41,984
経常利益	428,119	437,974
特別損失		
投資有価証券評価損	—	117
関係会社株式評価損	20,535	—
特別損失合計	20,535	117
税引前当期純利益	407,583	437,857
法人税、住民税及び事業税	69,941	97,317
法人税等調整額	114,396	51,663
法人税等合計	184,337	148,980
当期純利益	223,245	288,876

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	1,071,446	1,033,084	1,033,084	32,665	2,999,000	292,929	3,324,594	△266,539	5,162,586
会計方針の変更による累積的影響額						176,328	176,328		176,328
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,071,446	1,033,084	1,033,084	32,665	2,999,000	469,258	3,500,923	△266,539	5,338,915
当期変動額									
新株の発行（新株予約権の行使）	5,223	5,223	5,223						10,446
別途積立金の積立					160,000	△160,000	—		—
剰余金の配当						△130,750	△130,750		△130,750
当期純利益						223,245	223,245		223,245
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	5,223	5,223	5,223	—	160,000	△67,504	92,495	—	102,941
当期末残高	1,076,669	1,038,308	1,038,308	32,665	3,159,000	401,753	3,593,418	△266,539	5,441,856

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	52,191	52,191	514	5,215,292
会計方針の変更による累積的影響額				176,328
会計方針の変更を反映した当期首残高	52,191	52,191	514	5,391,621
当期変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）				10,446
別途積立金の積立				—
剰余金の配当				△130,750
当期純利益				223,245
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9,071	9,071	△514	8,557
当期変動額合計	9,071	9,071	△514	111,499
当期末残高	61,263	61,263	—	5,503,120

当事業年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	1,076,669	1,038,308	1,038,308	32,665	3,159,000	401,753	3,593,418	△266,539	5,441,856
当期変動額									
別途積立金の積立					90,000	△90,000	—		—
剰余金の配当						△131,200	△131,200		△131,200
当期純利益						288,876	288,876		288,876
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	—	—	90,000	67,675	157,675	—	157,675
当期末残高	1,076,669	1,038,308	1,038,308	32,665	3,249,000	469,429	3,751,094	△266,539	5,599,532

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	61,263	61,263	5,503,120
当期変動額			
別途積立金の積立			—
剰余金の配当			△131,200
当期純利益			288,876
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△10,296	△10,296	△10,296
当期変動額合計	△10,296	△10,296	147,379
当期末残高	50,966	50,966	5,650,499

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ① 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

##### ② 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

##### ③ その他有価証券

・時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

・時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

##### ① 商品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

##### ② 製品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

##### ③ 仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

##### ④ 貯蔵品

最終仕入原価法を採用しております。

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	10年～35年
工具、器具及び備品	4年～10年

#### (2) ソフトウェア（リース資産を除く）

社内における利用可能期間（3～5年）による定額法を採用しております。

#### (3) リース資産

##### ① 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

##### ② 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### (4) 賃貸不動産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

賃貸不動産（建物）	47年
-----------	-----

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定率法によりそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することにしております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定率法により発生時から費用処理することにしております。

#### (4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

#### (5) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額の当期負担額を計上しております。

#### (6) 工事損失引当金

受注製作ソフトウェア開発に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末において翌期以降に損失の発生が見込まれ、かつ、金額を合理的に見積もることができる契約について、損失見込額を計上しております。

#### (7) 債務保証引当金

関係会社への債務保証に係る損失に備えるため、被保証会社の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

### 4. 収益及び費用の計上基準

#### (1) 受注製作ソフトウェアに係る収益及び原価の計上基準

①当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約

工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)

②その他の契約

工事完成基準

### 5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

#### (2) 消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。



(貸借対照表関係)

※1 担保に供している資産及び担保に係る債務  
担保に供している資産

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
建物	54,159千円	52,310千円
構築物	62千円	30千円
土地	142,361千円	142,361千円
賃貸不動産	131,359千円	128,333千円
計	327,942千円	323,037千円

(注) なお、担保に係る債務の残高はありません。

※2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務 (区分表示したものを除く)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
短期金銭債権	52,431千円	43,295千円
短期金銭債務	68,105千円	81,519千円

3 保証債務

関係会社の金融機関からの借入債務に対し、保証をおこなっております。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
JAST TECHNIQUES PTE. LTD.	22,734千円	21,665千円
SafeNeeds株式会社	31,800千円	30,000千円

外貨建債務保証は、決算日の為替相場により円換算しております。

4 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
貸出コミットメントの総額	500,000千円	500,000千円
借入実行残高	一千円	一千円
差引額	500,000千円	500,000千円

(損益計算書関係)

※1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度24%、当事業年度22%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度76%、当事業年度78%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
役員報酬	101,031千円	96,627千円
賃金給料及び諸手当	569,175千円	620,172千円
賞与引当金繰入額	63,648千円	64,396千円
役員賞与引当金繰入額	13,124千円	13,596千円
退職給付費用	25,776千円	24,882千円
役員退職慰労引当金繰入額	16,886千円	15,988千円
減価償却費	50,724千円	37,369千円
研究開発費	269,095千円	346,315千円
賃借料	100,147千円	78,283千円

2 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	110,338千円	98,209千円
営業費用	235,487千円	391,795千円
営業取引以外の取引による取引高	27,568千円	15,704千円

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式997,367千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式997,367千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
繰延税金資産 (流動)		
賞与引当金	134,155千円	118,171千円
未払費用	19,746	17,780
未払金	17,455	14,523
未払事業税	8,958	10,057
その他	5,611	6,974
計	185,926	167,508
繰延税金資産 (固定)		
役員退職慰労引当金	96,512	96,275
退職給付引当金	244,640	237,763
貸倒引当金	21,798	26,692
賃貸不動産 (土地)	18,333	17,358
資産除去債務	26,682	25,549
関係会社株式	29,847	28,260
未払金	14,623	184
その他	11,760	8,887
繰延税金資産小計	464,200	440,971
評価性引当額	△201,254	△200,174
計	262,945	240,796
繰延税金負債 (固定)		
その他有価証券評価差額金	29,282	22,493
前払年金費用	88,812	102,827
その他	23,626	20,708
計	141,721	146,028
繰延税金資産の純額	121,223	94,768

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
法定実効税率	35.6%	—
(調整)		
交際費等永久差異項目	△2.3	—
住民税均等割	1.3	—
評価性引当額の増減	7.6	—
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	7.0	—
税額控除	△4.0	—
その他	—	—
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.2	—

(注) 当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成28年4月1日以降解消されるものに限る)に使用する法定実効税率は従来の32.3%から平成28年4月1日に開始する事業年度及び平成29年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.9%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については30.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は13,370千円減少し、法人税等調整額が14,633千円、その他有価証券評価差額金が1,263千円、それぞれ増加しております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首 残高	当 期 増加額	当 期 減少額	当 期 償却額	当期末 残高	減価償却 累計額
有形固定資産	有形固定資産						
	建物	328,275	3,415	—	37,314	294,375	302,298
	構築物	62	—	—	31	30	1,454
	工具、器具及び備品	85,636	10,497	0	30,042	66,092	181,244
	土地	142,361	—	—	—	142,361	—
	有形固定資産計	556,335	13,913	0	67,387	502,860	484,997
無形固定資産	無形固定資産						
	ソフトウェア	152,810	8,053	—	38,528	122,335	—
	電話加入権	6,180	—	—	—	6,180	—
	無形固定資産計	158,990	8,053	—	38,528	128,515	—
投資その他の 資産	賃貸不動産	131,359	—	—	3,025	128,333	195,084

## 【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	71,672	29,506	10,319	90,860
賞与引当金	405,302	382,929	405,302	382,929
役員賞与引当金	13,124	13,596	13,124	13,596
工事損失引当金	—	6,079	—	6,079
退職給付引当金	756,168	68,580	48,250	776,498
役員退職慰労引当金	298,432	15,988	—	314,420
債務保証損失引当金	4,896	—	4,896	—

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。 なお、電子公告によることができない事故やその他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。 ホームページ <a href="http://www.jast.jp">http://www.jast.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は親会社等を有していないため、該当事項はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第43期）（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日） 平成27年6月22日近畿財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成27年6月22日近畿財務局長に提出

#### (3) 四半期報告書及び確認書

（第44期第1四半期）（自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日） 平成27年8月5日近畿財務局長に提出

（第44期第2四半期）（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日） 平成27年11月10日近畿財務局長に提出

（第44期第3四半期）（自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日） 平成28年2月8日近畿財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

平成27年6月26日近畿財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成28年6月24日

日本システム技術株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 祥二郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 井上 嘉之 印

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本システム技術株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

## 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本システム技術株式会社及び連結子会社の平成28年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



#### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本システム技術株式会社の平成28年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、日本システム技術株式会社が平成28年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成28年6月24日

日本システム技術株式会社

取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 祥二郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 井上 嘉之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本システム技術株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第44期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本システム技術株式会社の平成28年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年6月27日
【会社名】	日本システム技術株式会社
【英訳名】	Japan System Techniques Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 平林 武昭
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市北区中之島二丁目3番18号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長執行役員平林武昭は、当社の第44期（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

## 【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年6月27日
【会社名】	日本システム技術株式会社
【英訳名】	Japan System Techniques Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 平林 武昭
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市北区中之島二丁目3番18号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社代表取締役社長執行役員平林武昭は、当社及び連結子会社（以下「当社グループ」という。）の財務報告に係る内部統制を整備及び運用する責任を有しております。

当社グループは、「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」（企業会計審議会 平成19年2月15日、以下「意見書」という。）に準拠して、財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

ただし、財務報告に係る内部統制は、複数の担当者による共謀によって有効に機能しなくなる場合や、当初想定していなかった組織内外の環境の変化等には必ずしも対応しない場合があるなど、固有の限界を有するため、財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

当社グループの財務報告に係る内部統制の評価が行われた基準日は、連結会計年度末日にあたる平成28年3月31日とし、意見書並びに一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価を実施いたしました。

評価の範囲については、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から評価範囲を選定し、全社的な内部統制、情報システム及び決算・財務報告に係る業務プロセスのうち、全社的な観点で評価することが適切と考えられるものについて、評価の対象といたしました。

また、当社グループの各業務プロセスについて、全社的な内部統制の評価結果を踏まえつつ、財務報告に係る金額的及び質的影響の重要性を考慮して内部統制評価の範囲を選定し、売上、購買、開発、人件費等の各業務プロセスについて評価対象といたしました。なお、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲となる重要な事業拠点については、各事業拠点の前連結会計年度における売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算して行き、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している事業拠点を重要な事業拠点として選定いたしました。

評価手続の概要については、全社的な内部統制の整備及び運用状況を評価し、当該評価結果をふまえ、評価対象となる業務プロセスに関して、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を選定し、当該統制上の要点について内部統制の基本的要素が機能しているかを評価いたしました。なお、評価に際しては、各業務プロセスに係る主要関連部門において、関係者への質問、記録の検証等による点検を実施するとともに、内部監査部門による当該点検結果の有効性の検証等の手続を実施し、内部統制の整備・運用状況並びにこれらの状況が業務プロセスに係る内部統制に及ぼす影響の程度を評価いたしました。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当社代表取締役社長執行役員平林武昭は、平成28年3月31日現在の当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4 【付記事項】

該当事項はありません。

## 5 【特記事項】

該当事項はありません。